

平成23年12月13日

1. 出席議員

議長 牟田勝浩  
1番 朝長 勇  
3番 上田雄一  
5番 山口良広  
7番 宮本栄八  
10番 古川盛義  
12番 吉川里己  
14番 末藤正幸  
17番 吉原武藤  
20番 川原千秋  
22番 松尾初秋  
24番 谷口攝久

副議長 小池一哉  
2番 山口 等  
4番 山口裕子  
6番 松尾陽輔  
8番 石丸 定  
11番 上野淑子  
13番 山崎鉄好  
16番 小柳義和  
19番 山口昌宏  
21番 杉原豊喜  
23番 黒岩幸生  
26番 江原一雄

2. 欠席議員

9番 石橋敏伸

25番 平野邦夫

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 筒井孝一  
次 長 松本重男  
議事係 長 川久保和幸  
議事係 員 江上新治

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	樋	渡	啓	祐
副	市	長	前	田	敏	美
教	育	長	浦	郷		究
技		監	松	尾		定
政	策	部	角			眞
つ	な	が	山	田	義	利
營	業	部	森		孝	畑
營	業	部	北	川	政	次
く	ら	し	古	賀	雅	章
こ	ど	も	馬	渡	公	子
ま	ち	づ	石	橋	幸	治
山	内	支	牟	田	泰	範
北	方	支	川	内	野	夫
会	計	管	山	口	光	則
教	育	部	浦	郷	政	紹
水	道	部	宮	下	正	博
総	務	課	松	尾	満	好
財	政	課	中	野	博	之
企	画	課	平	川		剛

---

議 事 日 程 第 5 号

12月13日(火) 9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

---

平成23年12月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
13	古 川 盛 義	1. 食育について 1) 武雄市の食育の取組みについて 2) 災害時の食の確保について 3) 学校給食の副食における県産食材の使用について 2. 学校給食の入札の件について 1) なぜ入札制度が必要だったのか 2) 調理員の給与について 3) 今後の対応はどうするのか
14	吉 川 里 己	1. 国民健康保険の安定運営に向けての取り組み 2. 市民と歩む I C T 先進自治体に向けての取り組み 3. 被災地支援の取り組み 4. 市民の安心・安全（防災・消防・防犯）についての取り組み
15	山 口 良 広	1. 武雄北方インター工業団地への通勤道路対策について 2. 農業問題について

○議長（牟田勝浩君）

おはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は5番山口良広議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、10番古川議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、一般質問を始めたいと思います。

朝晩ぐっと冷え込んでまいりまして、12月定例会らしくなっていてまいったところでございます。けさ新聞を見ておりまして、年末恒例のことしの漢字というのが載っておりまして、「絆」という字に決まったということでした。東日本災害で改めてきずなの大切さが再確認されたものと思います。災害支援のボランティアも5月を最高に、現在では1割程度に落ち込んだということで報道されておりました。市長が言われるとおりの、長く力強い支援が必要であろうと思うところでございます。

〔市長「長く細くよ。力強く」〕

さて、質問に入ります。

昨年の12月議会でもお尋ねをいたしました。武雄市の食育推進についてお尋ねをいたします。

がばい武雄の食育推進計画に沿って、多くの事業を推進しておられるとお聞きいたしました。これはひとえに、こども部長以下職員の皆様方の努力のおかげと深く感謝をいたしておるところでございます。

去る11月3日、文化の日に文化会館大ホールで、武雄市食育アドバイザーの杉田かおる講演会が開催されました。武雄市の食育の盛り上がりを感じたところでございます。野菜の直売、加工品の販売、それから豚汁の振る舞いなど大盛況でございました。ところで、この杉田かおる講演会について、参加者数、それから市民の反応はいかがであったか、まずお尋ねを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

おはようございます。（パネルを示す）こちらが11月3日の講演会の際のポスターでございます。議員の皆様におかれましても、お忙しい中、多数参加いただきましてありがとうございました。

(パネルを示す) こちらのほうが当日の状況でございますが、当日の参加者数は、関係団体の方合わせまして1,100人ほどの方に御参加をいただきました。その中で、当日の参加者のお声として、「自然や食の大切さを改めて気づいた」とか「オーガニックライフをもう少し知りたい」とかというような御意見もいただきまして、多くの方の意識の啓発、それから参画団体の意識向上につながったと感じております。

**○議長（牟田勝浩君）**

10番古川議員

**○10番（古川盛義君）〔登壇〕**

1,100人の参加があったということでございますが、非常に素晴らしい講演会でした。このように盛り上がりがある食育でございますが、東日本大震災を踏まえて、予測をはるかに超えた災害が発生したとき、我々はどうしたらいいのかと、食についても改めて考えさせられる時期だと思います。

私も10月2日からチーム武雄の一員としてボランティア活動に参加させていただき、東北の陸前高田市へ参りました。そして、そのとき広田半島の広田地区というところに参ったわけでございます。そこは半島でございます、震災から数日間孤立をしたところでございます。3日目か4日目にアメリカ軍がヘリコプターで物資を、食料を運んでくれたと、そして、その次の日に自衛隊が仮設道路をつくりながら、日の丸の旗を立てて、援助物資を持って来てくれたと。飲む物もない、食べ物もない、住むところもないというような状況で、本当に日の丸の旗を見たときに、「日本人でよかった、日本に生まれてよかった」と、「こう感じたのは初めてでした」と地区の人が言われました。私、その言葉を聞いたとき、市長が武雄に生まれてよかった、武雄で育ってよかったというような武雄市をつくりたいと最初に言われたことが思い出されました。そのような市にしていきたいと、私も努力したいと思います。

もし、大災害が来まして電気がとまった、飲む水がないと、食べ物もないというような状況になったとき、武雄市では災害に対応する手段としてどのようなことを準備してあるのか、お尋ねを申し上げます。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

備蓄は大変重要なことです。具体的に申し上げますと、私どもとすれば、平成20年度から食料の備蓄に取り組んでおります。ですので、20年度買ったものに21年度、そして22年度というのをどんどん加えていくわけですね。これ、賞味期限がありますので、この分については適宜訓練等で――いや、廃棄はしません。訓練等で使用するということにしております。

食料、アルファ米、おかゆ、乾パン、ビスケット、ミネラルウォーター、5,700人分の3日分を現在備蓄しております。これでちょっと多いのか少ないのかということに関しては、

また、これ議会、皆さんごらんになられていますので、また御意見お寄せいただければと思うんですけども、文化会館、両支所、各町公民館等に分散をして備蓄しています。

飲料水の確保については、本年6月27日、市内の有限会社アクアクララ佐賀との災害時における飲料水等の提供に関する協定を締結しており、このアクアクララ佐賀さんからは、災害時には1万2,000リットルの水を提供していただくことになっております。

備蓄の一部は、先ほど申し上げたように防災訓練にも活用しております。そして、武雄市が全国で一番早く救援物資を持ってきてくれたということになっておるんですけども、これも私どもが日ごろ市民の皆さんの御理解を得て備蓄している物のごく一部を供出させていただきました。そういったことで、これがまさか我々がためているとが他地域で使えるというのは、ちょっと夢にも思いませんでしたけれども、こういった意味で善意の輪が武雄から広がったことに関しては喜ばしく思っておりますし、これについて、議会がそうせいと言ったことに関しては、武雄市議会に心より感謝を申し上げたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

そしたら、今現在は5,700人分の3日分の備蓄があるということでございますか。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

当時、宮城県のほうに出しました分につきましては、平成22年度の購入分で補充いたしておりますので、5,700人分は現在ございます。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

3年前につくられた武雄市の食育推進計画で、災害時の対応などは含まれておったのかどうか。それから、武雄市の推進計画で幾つかの数値目標を上げておられました。効果が得られたもの、また、数値目標に多少届かないものというのがあると思いますが、どのような実態であるかお尋ねを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

3年前に制定いたしました、がばい武雄の食育推進計画でございますが、この中に災害等についての部分をつくっておりません。今後、こういう計画も必要ではないかとは考えておりますが。

それともう1つ、これまでの1次計画の中での数値目標でございますが、数値目標を設定しておりました学校給食における県産食材の利用率は、平成19年が46.9%、平成22年が64.5%で、目標値50%を大きく超えて達成しております。

目標値に及ばなかったものとして、市民の望ましい食習慣の定着として年代別肥満の割合を挙げたいと思います。40歳から50歳代の数値で肥満の者の割合が男性で目標値21%に対し実績36.3%、女性で13%に対して17.9%と、目標にはほど遠い状況です。この基礎データは、国保加入者の特定健診データを使用しておりますので、若干正確さを欠いているかも知れませんが、生活習慣病に結びつく可能性が高い肥満傾向が進んでおり、今後も注視していく必要があります。おやつの習慣化や1回にかむ回数が少なくて満足感が得にくい状況にあるのも大きな原因であると推測しますが、今後は生涯にわたっての食育の流れからしても、日常的な運動を取り入れたり、保健・医療部門との連携を強化するなどの施策が必要だと考えております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、質問を聞きながら考え方を変えました。食育と災害は何の関係のあるとですかねとかと思っていましたけど、やっぱり関係ありますよ。もう盛義議員の言うとおりです。

それで、何でそういう考え方に至ったかという、さきのNHKの「ニュース7」で、ずっと長期化していきよったら、もう御飯ば食べとうなかって。そいけん、例えば、ここにもレパートリー結構あるとですよ。アルファ米でも五目御飯とかワカメ御飯とかありますけれども、やっぱり飽きるわけですよ。そいぎ、何を言いたいかという、NHKの中では、みそにショウガとニンニクばすったとば入れて、そいば焼いて、そして、そいばお握りにして食べたら急に皆さんの食欲が増したという事例があったわけですね。

そいぎ、私は全部そいば用意せいというやなくて、食改とかと話をして、そういうメニューをあらかじめつくっておこうというふうに思っています。それは、本当の意味での非常時における食育ですもんね、これ。やっぱりこの前、私も避難所に参りました。盛義議員も行かれたと思いますけれども、やっぱりいっぱい物資はあるとですよ。しかし、栄養失調という話を結構聞いたですもんね。食物繊維が不足したりとか、油の取り過ぎとかということに関して言うぎ、それをつくっていることが、これ、実は日ごろの食育にもつながっていくことを思いますので、ぜひ食改と、中尾会長さんと話をしますので、そういったメニュー開発も含めてするということをお約束したいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

バランスのとれた食事をするということが求められるということなんですが、武雄市の方が肥満度が高いというのは、武雄市がそれだけ栄養が行き渡っておるということじゃないかと思えます。

〔市長「いや、そがんことなか」〕

また、食育の推進の活動については、多くの団体の方がかかわっておられると思いますが、主な団体としてどのような団体がかかわっていただいておりますのか、今後どのような活動で推進するのがより効果的であるのかというようなことをお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

市民団体の活動についてのお尋ねでございますが、まずは目的を同じにする食生活改善推進協議会、こちらや、婦人会が各地で実施するふるさと料理教室などは広く御協力をいただきました。

また、1次計画では、子ども、野菜、体験などがキーワードになっていましたので、幼稚園や保育園、学校などの子どもたちの野菜づくり体験活動の受け皿となって指導していただいた団体として、武友会や山内町オアシス会、地元産の野菜や加工品を販売している味菜ネットワークを挙げることができます。

先日、武友会と旅館京都屋さんがコラボレーションした武友御膳の試食会が行われ、観光と食と農の組み合わせによる取り組みが紹介されました。同時に、武雄市商工会も地元食材をたくさん使った武雄若楠ポーク黒米弁当の開発に着手されており、食と農のきずなづくりは武雄ならではの味として地産地消や観光の拠点となっている物産館や黒髪の里などの直売所や食事どころの取り組みに加えて、新たな実を結びつつあります。

また、効果的な推進方法ということですが、食の基本は家庭であり、個人の意識が左右することから、情報提供に重きを置くことは重要なことと思えます。

また、子どものときに覚えたことを大きくなってから修正することは難しいので、従来のように保育所、幼稚園、学校などの集団の中での食育は重要なことだと感じております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

地域団体と連携をしながら食育推進に邁進しておられるということは十分わかりました。今後、いろんなイベントかれこれありますが、食育を推進するためには、地域団体が主導権を握り、市がそれをサポートするというような形に徐々に変えていくべきではないかと私は考えます。食育課の皆さんが大変頑張っていただいていることは十分理解をするところでございます。

次に、学校給食についてお尋ねをいたします。

学校給食の副食における県内産食材の割合については、目標に達しているということでございましたが、食育について、学習指導要領にも組み込まれたと聞いておりますが、学習現場での食育指導というのはどのようになされているのか、お尋ねを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今お話にありました食育課を、市長、19年に設けられたわけでありましたが、この食育課があるということが非常に学校給食推進上もやりやすい体制ということで、ありがたく思っております。生涯を通じた食育の中で、学齢期の部分、ここの学校給食をどう充実させるかということですが、端的に言いますと、時間割は知らなくても、その日の給食メニューは知っていると、子どもたちの食への興味、関心というのは非常に強いわけでありますので、そのタイミングをとらえて、より充実させていきたいというふうに思っているわけです。

ここ数年、法的な整備もいろいろなされてきて、話にありましたように、学習指導要領等でも食育が重視されてきているわけがございます。もうこれまでもしばしば言われておりますように、健康な生活を営むためにはどういう食習慣がいいのかと、あるいは感謝の心とか、一緒に食べながらの好ましい人間関係をつくり出すために有効であるとか、あるいは食料が外国からこれだけ輸入されてきたりというような状況、そういうことを考えますと、食育、学校給食での指導の可能性というのも非常に強くあるわけがございます。

そういう中で、学校としては食に関する全体計画をいかに計画的に進めるかということが大事でありまして、全体計画を作成して取り組んでおります。もう見られていると思いますけれども、給食献立、あるいは栄養のポスター、校内放送での一口メモ等、学校給食そのものの指導、あるいは給食当番活動を通じた特別活動の領域での指導、給食委員会とか学校行事等もございます。あるいは教科の中で、社会科でする、あるいは理科で植物の成長など、あるいは動物も含みますけれども、生活科の中で家庭生活を扱うところで指導すると、あるいは家庭科はもう直接調理をしたり食事の見直しをしたりと、体育の中でもするわけがございます。

また、武雄ならではのところで、田んぼづくりを小学校4校でやっておりますし、中学校1校では一日農業体験をやりと、あるいは職場体験としても数カ所で受け入れていただいております。そういう中で、栄養職員、栄養教諭につきましても、現在6名という非常に恵まれた体制で学校給食を推進しているところでございます。

いずれにしても、食育課、それから農林商工課初め今御紹介ありましたいろんな各団体の方の御協力も非常に強く受けておりまして、そういう中で、学校現場での食育は非常に充実していく方向にあるというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

学校給食においては、平成8年から民間委託が開始され、13年度には旧武雄市内、中学校3校、小学校8校がすべて民間委託になりました。現在では北方、山内の給食センターも民間委託になっております。学校給食の委託料というのは、調理業務費、技術料を主として衛生管理料を含んでいると思います。平成21年度より一般競争入札ということで3年間が経過いたしました。今年度より2回目、二回目入札となるわけでございます。3年間を検証いたしまして、どのようなところにメリットがあったのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

平成21年度に給食調理業務委託業者選考委員会を設置して、方法を検討いたしました。そこで、仕様書に記載した給食調理業務の作業を委託するもので、民間のノウハウも十分整備をされているということを考えて、平成21年度より競争入札を実施したところでございます。メリットとしては、当然入札の実施によって入札減等があるということで、委託料の削減になったというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

時代の流れといたしまして、業務委託をするときに随意契約じゃなくて一般競争入札が透明性、公平性を保つには一番いいということは十分理解をしております。

また、入札減が生じ、不用額もふえたということでございますので、これはいいことでございます。

また、地産地消などを進める立場から見ますと、地元産品の利用も学校給食が一番やりやすいと、また、武雄市の生産者の皆さんの結局収入アップにもつながるということで、非常によろしいと思います。教育委員会といたしましては、落札業者の方に、なるべく市内の方を雇用してほしいというお願いをしておられます。また、調理員の方々は、ほとんどが武雄市内の方が従事していただいております。今後、入札でどんどん委託料が下がった場合に、民間企業のことですけれどもいろいろできないかとは思いますが、調理員の方の給与が確保されるのかどうか危惧をしているところでございます。現在も人員の削減や正職員からパート職員への変更、それから勤務時間の減と、それから時給の減などが行われております。民間企業に委託しておるわけですから関与はしにくいという面もあると思いますが、その点、委託前に多少の指導ができないものかどうか、お尋ねを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

委託業者従業員の方への給与については、受託業者が支払いをしているため把握できていないというのが実態であります。今、御心配の部分につきましては、ハローワークを通じて調理員の募集が行われているというふうに思っておりますので、適正な給与が支払いをされているというふうに考えているところであります。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

適正な給料が支払われておるといことでございますが、発注者としてしっかりその点を把握していただきたいと思ひます。

学校給食については、調理業務ともう1つ、食の安全・安心を守るといような重要な任務があると思ひます。地震、津波、原子力災害と大災害の後、食の安心・安全が問われております。食の安全をしっかり守ってほしいと考えるところでございます。

それから、本年度、武雄中学校、川登中学校、北中の3校が入札を予定されております。学校給食では一般の入札とは違い、子どもたちの食に関することですので、安ければいいといことばかりではないと思ひます。今後、入札のあり方をどう考えておられるのか、お尋ねを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

業務仕様書に基づきまして予定価格を設定して入札を行っていききたいといふふうに思ひますし、当然安全・安心の学校給食ができるように努力をしていききたいといふふうに思ひております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

仕様書に基づいて調理全般ができていのかどうか、監督業務を教育委員会としてはぜひお願いをしておきたいと思ひます。

また、今後の対応といたしまして、調理室の設備の拡充に力を入れてほしいといこともお願いをいたします。設備拡充はまた別予算でやるべきであろうといふように思ひますが、入札減も生じておりますので、設備拡充など、十分に学校側と協議をいただきまして、改修に力を入れてほしいとお願いを申し上げまして、私の一般質問を終わります。

○議長（牟田勝浩君）

以上で10番古川議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、10分程度休憩いたします。

休 憩 9時32分

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、12番吉川議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。自由民主党、政策研究クラブの吉川でございます。ただいま議長から登壇の許可をいただきましたので、私の一般質問を始めたいと思います。

今回、通告は4点ございます。通告の順に従っていきたいと思います。

まず、国民健康保険の安定運営というふうなことでお伺いをしたいと思います。

さきの11月に平成22年度の決算が行われたわけでありまして、武雄市の財政状況を見ますと、国保の決算が一番今課題になっているのではないかなというふうに思っております。

国民健康保険制度につきましては、昭和36年に制定をされて、国民皆保険というふうなことで、国民がひとしく医療を受ける制度がちょうど半世紀前にできたわけでありまして、今に至っては制度がひずみを起こしているということでありまして、ただ、この半世紀の間、日本国が長寿社会になった一つの要因というふうにも言われておるわけでありまして、現在、状況を見ますと、医療の高度化あるいは高齢化、こういったものの進展によりまして、医療費が物すごく増加をしてきている。それからまた、逆に負担の部分、歳入の面でいきますと、保険税の伸びがなかなか伸びないということで、非常に問題視をされておるところでございます。

そういう中で、この武雄の国保運営についても大きな赤字を出しているということで、この国保会計については、台所事情は火の車の状態にあるという認識を私は持っておりますけれども、まず、市長もそのことに対して同じ認識をされているかどうかお伺いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

火の車、同じ認識です。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

同じ認識ということで質問させていただきたいと思いますが、まず、今の国民健康保険の状況を見ますと、保険税については各市町村が担当するというふうなこと、それから、給付については国が今管理をしております。ということで、この国民健康保険については一

元化ができていない。そういうことも踏まえて、非常に大きな格差になっている、弊害になっているというふうに思っております。

県内の10市のうち、8つの市がもう赤字決算に陥っているというふうな状況にあるわけがありますけれども、これについては各市町村の問題もありますけれども国の問題、国がやはり全くやらない、けしからんというふうに思うわけがありますけれども、このことについてのどのように思われるのか。

今、民主党政権につきましては2年になります。国民生活が第一というふうなことで立ち上がったわけがありますけれども、何ら対策が打たれない。そしてまた、社会保障等税の一体改革、今進められております。しかし、消費税の増税論が先走っております、具体的な医療、福祉、年金、こういったコンセプトが全く示されない。このことに対して、国保も踏まえて国の対応をどのように市長は認識をされているかお伺いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もうでたらめですね。先ほど吉川議員からありましたように、何で住んでいるところで保険料が違ったり、そういったことになるのでしょうか。日本国というのは、基本的に全国一律というのは無理にしても、やっぱり佐賀県内ぐらい一緒にならんぎ、佐賀県の意味のなかですもんね。さばけんて言われます。ですので、そういったことから、やっぱり後で出てくるかもしれませんけれども、しっかり広域化ということをするには必要だというふうに認識しております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

（パネルを示す）それでは、ちょっと各論の部分に入っていきたいというふうに思います。これは武雄市の国民健康保険の収支の状況をフリップにしたものでございますけれども、グリーンの部分の棒グラフが単年度収支であります。それから、赤の折れ線グラフが累積の収支を示しております。平成20年度から後期高齢者の医療制度が始まったわけがありますけれども、この年におきましては、総額で1億6,361万円の単年度赤字を出している。しかし、このときには、繰越金が7,400万円ほどございました。それと、8,943万円の部分につきましては繰り上げ充用をしている。平成21年度は7,380万円の繰り上げ充用、そして、平成22年になりますと8,803万円の単年度赤字と、この年にはちょうど診療報酬の改定がなされた年であったというふうに記憶をしております。それと、過年度償還金が5,000万円ほどあった。そういうことで累積赤字が何と2億1,797万円まで膨れ上がるとのわけですね。

武雄市の国保の赤字の状況に対して、担当部長はどのように分析をされているのか、まず

お伺いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

国民健康保険会計につきましては、吉川議員御指摘のとおり、大変厳しい状況になっているということでございますけれども、近年、武雄市におきましても相当な赤字が出ているという状況でございます。

この赤字の原因ですけれども、やはり国民健康保険そのものが例えば被用者保険をやめられて国民健康保険に入られる、その際は、年金あるいは無職という状態に入って来られる方もいらっしゃるわけですので、そういった意味では、国民健康保険は所得の少ない方で構成をされているという状況ですので、非常に厳しいというのが近年続いているわけですね。さらに言いますと、経済の状況が非常に悪いというようなことで、保険税の調定額についても年々減っているという状況でございますので、このようなものも影響している。

さらには、高齢化がどんどん進展をいたしておりますので、こういった医療費がどんどん高くなっているという状況もありますので、そういったものが相まって赤字がふえている状況にあるというふうに認識をいたしております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

平成22年度については私から答弁をしたいと思います。

（パネルを示す）特に平成22年度が、ちょっとこれ今まで見ないぐらいに赤字が膨らんでいるのは診療報酬の改定に伴うものであります。これ全体改定額が0.19%、これ約700億円で10年ぶりのプラス改定になっているんですね。その中で、特に上げ幅が大きいのが3.0%という入院です。この入院も急性期の入院医療に重点配分になっております。したがって、国全体として救命救急の入院を充実させなきゃいけないといったこと、これについては、お医者さんだけの負担ではとても賄い切れないということで診療報酬を上げましょうという影響が今回の、これ国全体ですけれども、赤字につながっているということはぜひお伝えをしたいと思います。

その中で武雄のことを申し上げますと、（パネルを示す）もう宮本栄八議員も書かれないと思うんですけれども、要は、あほな話が結構広がっていて、新武雄病院ができたから医療費が国保は上がるんだという指摘も、山口昌宏議員も以前指摘をされておりましたけれども、あるんですよ。だけど、これ見てもらえばわかるように、もともと同じ病気は同じ値段であります。その中で、比較しても嬉野医療センターであったりとか、佐賀大学の医学部病院で

あたりとか、白石の共立病院と比べるとほとんど変わらないわけですね。ですので、その議論は全く当てはまらないということを伝えるのと同時に、もともとこれも誤解があるんですけども、例えば、山口昌宏議員が倒れたとしましょう。そのときに、大村の国立のセンターですよ、あそこで治療を加療しても例えば新武雄病院で治療を加療しても、その国保というのは武雄の国保に響くわけですね。ですので、どこで治そうと、どこで治療をして、どこで入院をしようとも、それは山口昌宏さんが武雄市民である限りは、その国保に響くわけですよ。だから、新武雄病院ができたからといって、別にいたずらに擁護するわけじゃないんですけど、誤った風評が広がっていて、それはもう全然ならない。むしろ、今まで旧市民病院とかたらい回しの権化だったわけですよ。そこがきちんと直すことによって、直すことによって、市民の福祉の維持向上につながっているということだけは、ぜひお伝えをしたいと、このように考えております。

ただ、そうは言っても、これで国保の問題とはまた別の話ですので、それはさらに議員各位のお知恵を借りながら運営の改善に努めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

平成22年度の大幅な赤字については診療報酬の改定があったと、0.19%ですか。それから、急性期の入院、これに3.03%、約4,000億円ぐらい投下されていると、これが響いているということもございますけれども、じゃあお聞きしますけれども、平成23年度、もう残すところあと3カ月余りになったわけでありまして、23年度末の見込みについて、もしわかればお伝えください。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

23年度につきましては現在、進行をいたしておるわけですが、一つ要因としましては、先ほども若干申し上げましたけれども、保険税の調定額については落ち込んでいるという状況もございますので、現在より好転をするという見込みは立っておりません。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

非常に厳しい状況にあるということですね。

それでは、（パネルを示す）国保の収支の改善をこれからやはり進めていかなきゃいけないというふうに思うわけでありまして、私なりに考えられるものの項目をちょっと挙

げてみましたが、まず収納率の向上を目指す。それから、医療費の削減ですね、これは削減というか抑制、お医者さんにかからなくていいように事前に健康管理をするといった部分が主体になるというふうに思いますけれども、それから国保税の見直し、一般会計からの繰り入れ、あるいは広域化ですね、こういった点が主なものとしてあるわけでありまして。特に収納率とか医療費の抑制については、やはり単年度収支に物すごく影響してきますし、累積赤字の解消については、一般会計からの繰り入れ、こういった部分をやはり今後検討していく必要があるというふうに思います。

それから、安定運営については、やはりもう小さいまちで対応するのではなくて、大きいくくりで対応をしていくと、そういったことが必要ではないかなというふうに思っております。その中で、この収納率についてまずお伺いをさせていただきますけれども、現状の部分ですね。平成21年度が90.4%、それから平成22年度が90.8%ということで、0.4ポイントほど改善は1年間でされていますけれども、ほぼ横並びという状況でございます。

その結果、収入未済額が1億773万円ほどに上っているというふうにお聞きをしておりますけれども、この収納率でいきますと県の基準が93%、国の基準は91%ですね。武雄市は91.5%がカットラインと、ペナルティーラインというふうに思いますけれども、今回は広域化ということで、財政調整交付金のペナルティーはないというふうに伺っております。それにしても、90%台というのは非常に低いというふうに思いますけれども、収納率の状況と滞納ですね、こういった部分も含めて今の分析をどのようにされているか、まずお伺いします。

**○議長（牟田勝浩君）**

古賀くらし部長

**○古賀くらし部長〔登壇〕**

収納率につきましては90%台で推移をしているということで、平成20年度に後期高齢者医療制度が始まりまして、75歳以上の方が県で統一をされまして、従来75歳以上の方は年金収入が非常に多いということで、収納率につきましては大変よい方々でいらっしゃいましたので、その方々が後期高齢者医療制度に統一をされたということで、武雄市の国保、県内の市町村の国保はすべてでございますけれども、全体としては収納率が落ちたという経過が一つございます。

その上で、最近の経済情勢等々を考えると、それよりもさらに近年は落ち込んでいくという状況でございますが、22年度につきましては若干ではありますが改善をしたということで、この傾向を今後さらに続けていきたいというふうに考えておまして、23年度以降につきましても、税務課で特別のチームをつくったり、収納の相談に応じたり、そういったことを通じまして収納率の改善に努めていきたいというふうに考えております。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

収納率の部分では、やはり高齢化が進んでいるという部分もあるというふうに思います。武雄の国保の加入者が1万3,000人強ですね、その中で65歳から75歳の前期高齢者が大体3分の1を占めている、31%ですね、約4,000人、4,100人おられるというふうなことで高齢化の影響もあるということでもあります。

武雄の収納率を県の自治体の平均で比べてみますと、県が92.4%なんですね。武雄が90.8%、1.6ポイント平均よりも武雄市の収納は悪いんですね。ですから、この辺をぜひ上げていただきたいというふうに思っております。

佐賀県内の市町、20市町ありますけれども、そのうちで、目標はそれぞれありますけれども、達成しているのは15市町あるんですね。達成していないのが5つ、恐らくこの武雄市も未達成の部分に入っているんじゃないかなというふうに思いますけれども、その中で、佐賀市が95%の収納率を誇っているというふうに聞いております。これは、佐賀県一じゃなくて日本一、全国1位らしいですね。その次に高いのが、これは町ですけども基山町、これも高いというふうなことで聞いております。そういうことで、ぜひ先進的な取り組み、どういう取り組みをされているかわかりませんが、こういったところの事例に倣って、やはり向上させる必要があるというふうに思います。

1%収納率を上げることによって、1,000万円歳入がふえるわけですね。佐賀並みに95%まで持っていったら5,000万円の収入が浮くわけですよ、歳入が入る。ですから、ぜひここは収納率向上に向けて対応をしていただきたいというふうに思いますし、また、後だつて対策等についてはお伺いをしたいというふうに思っております。

それから、次、2番目ですね。2番目の医療費の削減というふうなことで抑制ですね、これについての今の現状の取り組みについてお伺いいたしますけれども、これはレセプト点検とかで医療費の適正化を図ったり、あるいは生活習慣病、特定健診、40歳から74歳までの皆さんの健診をしたり、あるいは人間ドック、脳ドック、人間ドックは40歳から65歳まで5年刻み、それから脳ドックに関しては43歳から68歳までの5年刻みということで、いろんな取り組みをしていただいております。この今の現状、このほかにもいろいろやられているというふうに思います。この状況についてどういう成果が出ているのか、まずお伺いしたい。

**○議長（牟田勝浩君）**

古賀くらし部長

**○古賀くらし部長〔登壇〕**

議員からも若干御紹介ございましたけれども、幾つか現在取り組んでいる事業につきまして御紹介をさせていただきたいというふうに思います。

まず、1つ目が特定健診です。メタボリックシンドロームというふうなことで、これは後

の病気が出てくるということを予防するために必要なことですが、特定健診を勧めているという状況でございます。本年度につきましては、ふるさと雇用創出事業によって看護師さんを2名採用いたしまして、個別に受診を勧奨するなどの対策をとっているというところでございます。

次に、ヘルスサポート事業という事業がございますけれども、これは現在、通院をされているというような方々につきましては特定健診を受けられない傾向が強うございますので、そういった方々に特定健診の項目を健診していただくというようなことでやっている事業でございます。さらには、医療機関へいろんな重複で受診をされたり、頻回受診をされたりという方いらっしゃいますので、こういった方々につきましても、看護師が訪問をいたしまして指導をしているということも行っております。

人間ドック、脳ドックにつきましては、議員御紹介のとおりでございます。

さらには、骨密度の健診、骨粗しょう症等やはり年齢を重ねるとこういった骨密度が落ちていらっしゃる方につきましては骨折が多いと、それに伴って入院をされて、さらにほかの病気にかかるというようなことにもなりますので、そういったものの予防に努めているというようなことでございます。

さらには、先発医薬品より後発の医薬品が値段が安いというようなこともございますので、後発の医薬品につきましては、希望される方についてはそれを使っていたきたいという趣旨で窓口を設置をしている、そういったものもしているということでございます。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

いろいろと打つ手打っていただいているということで御紹介いただきましたけれども、本当に通院時に同時に健診までしてもらおうというヘルスサポート事業ですか、これは非常にいいなというふうに思っておりますし、また、きょうの新聞にもついていましたけれども、ジェネリック医薬品ですね、今シェアが23%ということでありますけれども、これも厚生労働省が30%まで24年度は持っていくということであっております。これも医薬品、50%から70%ぐらい格安というふうなことで書いてありましたけれども、ぜひその辺も推進をしていただきたいというふうに思います。

この医療費の抑制については、私も余り収支の改善にはつながらんだろうというふうに思うとったんですけれども、これが先日、2日前ですかね、医師会館で講演会があったのを聞いて考え方が180度変わりました。医師会館であったのは武雄市が主催して、武雄杵島地区の医師会が共催をされていますね。市長も医師会の壇上に上ってごあいさつをされた、主催者としてあいさつされたわけでありましてけれども、演題が「支える医療」というふうなこと

で、これは旧夕張の総合病院でありますけれども、破綻しました。破綻して再生するために夕張医療センターということで立ち上げられたのが、この村上智彦先生ですね、理事長をされております。この方が来られて、ちょうど若干50歳ぐらいの若い方ですね。この方のお話を聞いて本当に変わったんですね。予防医療が必要なんだと。夕張で今やっているのは予防医療を中心にやっています。1つ目はワクチンの接種、これについては肺炎球菌のワクチン、お年寄りにはこれをぜひ進めていると。それから、インフルエンザの予防接種。それから、口腔ケアですね、歯磨きを1日4回しなさいと、4回したら病気になりませんよと。それともう1つは健診、健診を必ず受けてくださいと、健診を受けられている自治体は、やはりそれだけ健康意識があるから病気にならないということを言われていましたね。それだけするだけでも、心筋梗塞が半分になりましたということです。あと、日々の節制のところではカロリー、やはり過剰なカロリーをとり過ぎないようにしましょうということ、それから運動不足にならないように。そして、環境ですね、環境はストレスをためないようにというふうなことでお話があったわけでありませう。

その中で、日本の国民の医療に対する満足度、世界最低らしいです。医療技術は最高、寿命は最高と。だから、そこの認識をやはり国民の皆さん、市民の皆さんが考え方をやはり改めないと医療費は抑えられませうよという講演会だったんですね。これはぜひ、市民の皆さん全員に聞いていただきたいというふうに思いました。

それと、もう1つ言われたのは、救急車の無料は世界で日本だけらしいです。大体1回出動するのに4万円強かかるということですね、それだけの費用がかかっています。

そういうことで、2050年には高齢化率40%になりますので、ぜひこの予防医療を推進してほしいというふうなことで講演がありました。このことについて、市長、部長、行かれとったと思いますけれども、何かコメントありましたら。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

村上智彦さんとお友達でよかったと思いましたが。最初私は、あの方から嫌われとると思っただけですね。というのは、なぜかと言うと、病院の民間移譲に当たってやっぱりあの方はもう地域医療ですもんね。私はともすれば救命救急が大事なんだというふうにして嫌われとるかなと思って、さきに会うたら、樋渡さんの選択は最高でしたということで、今、全国の医療界、特に地域医療が注目をしているということをおっしゃっていただいたんですね。そういった中で村上さんがおっしゃったのは、別に医師会が悪いとか、行政が悪いとか、住民が悪いとかじゃなくて、みんな勘違いしとると、みんな勘違いを。そういう中で、これは今度ケーブルテレビでも流れると思うので、内容については差し控えますけれども、やっぱり我々が常識で思っていることが非常識だということ、その結果、その非常識をちゃんとし

た常識に戻すことによって、先ほど吉川議員からありましたように、心筋梗塞が半分になったりとか、救急車の出動回数は夕張市は今全国最低だそうです。しかも、寿命は伸びているそうです。そういった中で、ああ、そうなんだということの本当の気づきの講演会になったと。これ、偉いのは医師会ですよ。よく貸してくれたと思いますね、本当に。だから、そういう医師会と連携をきちんとすることによって、市民の皆さんの福祉の維持向上につながっていくというふうに確信をしました。

その一方で、やっぱり保健師の見直しです。村上先生がおっしゃったのは保健師の皆さんが前面に立つところは物すごく受診率も高いし、その結果として健康だということをおっしゃったんですね。そいぎ、「どういうことですか」と言うたぎ、うちにも聞きました、井手さんたちに聞いたら、もうペーパーばかりで、厚生労働省に出さんばいかんやったりとか、これ前に教育委員会にも言いましたけれども、もうペーパーは出さんでよかですよ。もう適当に部長書いとってください。それよりも、保健師の皆さんたちは地域に出て、しかも御自宅に黙って入らるつとは警察と保健師ともういっちょ何か言いよんさったね、警察と保健師と弁護士やったかな、3つなんですよ。それだけ保健師というのは市民の皆さんたちの生命、安全に直結しとるわけですね。ですので、我々とする、健康行政については、暮らし行政については保健師を前面に立てるようなのに切りかえます。切りかえて、そこで顔の見える密着して、あの保健師、井手さんの言いさんないばと、村山さんの言いさあぎんたというふうに、そういった心温まるというか、つながりのある健康行政に持っていきたいと思います。ですので、ペーパーについてはくらし部長、御自身で書いてください。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

全国の自治体の医療費すべて右肩上がりですね、この夕張市だけは右肩下がり、毎年1億円ずつ減らしているそうです。だから、絶対勉強する価値はあると思いますので。

ぜひ市長にお願いなんですけど、やっぱり今回医師会館で約300人の方に聞いていただきましたけれども、これはやっぱり武雄市民の皆さん全部に聞いていただいて、自分で健康管理をするということの必要性をやはり植えつけないかんと思うんですね、啓蒙活動。ぜひ、これ文化会館の大ホール等を貸し切ってやるべきメリットがある事業だというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは同じことを牟田議長、黒岩議員からもお話を賜りました。やはり行かれた方は、こ

これは市民の皆さんたちに聞いてもらったほうがよかばいということですので——村上先生も非常に多忙なんですね、多忙ですので、村上先生の日程と私どもの日程で集まりやすいところに、ちょっと1年に、当分の間1年に一遍お呼びをして、その中に市民皆さん、文化会館の大ホールでしていただくのと同時に、保健師さんとか口腔ケアをされている方々であるとか、あるいはケアマネジャーとか個別にもしていきたいというふうに思っています。そして、看護師さんですね、看護師さんも含めてそうなんですけれども、これは必ずお呼びしたいというふうに思っております。そして、驚くべきことに質問に立たれていた方が伊万里のお医者さんだったんですね。「これ、何で来たですか」と言ったら、いや、市長のフェイスブックで来たという話ですので、そういった告知も含めて広く、これ武雄市民だけじゃもったいなかです。ですので、世界じゅうから集まるように、しかも泊まっていただくように仕掛けていきたいというふうに思っておりますので、ぜひ議員各位の皆さん方の強力な発信力で、また告知もお願いすることになろうかと思っておりますので、その際はよろしく申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

本当に村上先生は顔もいいし、頭も切れて行動力抜群です。樋渡市長に似たタイプだというふうに思いましたけれども、この方、本当に気さくでツイッターでも私がフォローすれば、もうすぐフォローを返してくれます。講演会の後すぐ、フェイスブックも友達申請したらすぐ返ってくる。本当に気さくで庶民的な方で、非常にいいと思いますので、ぜひお願いをしたいと思います。

それでは次に、3項目めですね。国保税の見直しについてと、もう1つは一般会計からの繰り入れ、この2つについてちょっと一緒にお話しをさせていただきます。

所得割につきましては、平成18年度に9.9%であったものが19年度11%に改定がなされたわけでありまして、そこで、均等割が2万3,000円から2万5,800円、それから、平等割、世帯割ですね、これが3万2,000円から3万3,600円ということで改定をなされたわけがあります。それから、20年度に入りますと、先ほどから話があるように、後期高齢者医療制度が入ってきたと、これで支援金が分かれていったわけですね。武雄市の税率についてどのように認識をされているのか。

それと、一般会計からの繰り入れですけれども、全国で大体2,500億円ぐらい一般会計からの繰り入れをされているというふうに伺っております。特に大都市では、大阪とか神奈川あたりもやられている。佐賀県の中でも幾つかあるんじゃないかなと思いますけれども、聞いたところによると、鳥栖が4,000万円ずつ毎年一般会計からの繰り入れをするということでありまして。武雄はゼロで法定外の繰り入れの特定健診分の3分の1の800万円ほどは入れられておるようでありまして、基本ゼロ。ぜひ、ここについては一般財源を投入する

べきだというふうに思いますけれども、今の状況についてお伺いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ非常に難しい問題で、以前から黒岩議員が御指摘もされた部分であるんですけども、今、先ほど吉川議員からもありましたように、佐賀市が物すごく徴収率が上がってるわけですね。これは徹底的に研究します。その上で、やっぱり先進事例はきちんと吸収してまねをすること、それによって歳入をふやすということ、それと歳出の抑制ですよ。これは吉川議員からありましたように、例えば医療費の削減であるとか、そういったことも含めて今、抜本的な改善策をくらし部に指示をしています。今、一生懸命考えてもらっているんですけども、それを見ながら例えば税率改定とか、今、暮らしが物すごく厳しいときになっているわけですね。一般会計の繰り入れについても、これは市民負担なんですよ、要するに。市民の皆さんたちのこっちに使う税金をこっちに持っていくということですので、これ市民負担には変わりなかわけですね。

そういったことも含めて、今、抜本策の指示をしておりますので、これをまた議会に提案をしたいと思っております。それでも、どうしても足りない部分になった場合には、また頭を下げて議会に、市民の皆さんたちをお願いをするという段取りをしていくつもりでおりますので、国とは全く逆にします。国は消費税率のアップばして、その当てはめばしよるじやなかですか。我々は懸命な努力をした上で、足らざる部分についてはしっかりお願いをするということにしていきたいと思っておりますので、ぜひ議会の皆様方と市民の皆さんたちの御理解をお願いしたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ありがとうございます、検討するということですね。

ちょっと参考で結構ですので、税率の改定あるいは一般会計からの繰り入れですね。さっきちょっと鳥栖の部分申しましたけれども、県内でそういった取り組み今現在、やられているところがあるのかどうか、これ御紹介していただきたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

御指摘のとおり、県内各地も非常に国保会計が厳しいという状況になっておるようです。先般、小城市も税率を改定するというような記事も出ったわけですけども、現在のところ県内20市町があるわけですが、税率としてある一定の枠で計算をしてみますと、武雄市は

税率は15番目という位置に位置しておりまして、うちよりも低い、例えば伊万里市あたりも24年度は税率を改定するという事で決定をされているわけですね。

そういったことで、各市町苦慮をされているわけですが、先ほど御指摘のとおり、赤字補てんのための法定外の繰り入れをされている自治体ということで御紹介をさせていただきますと、先ほどおっしゃいました鳥栖市、それから鹿島市、白石町、玄海町、こういった県内では4市町がそういった対応をされているということでございます。

それから、税率改定につきまして、現在、私どものほうで把握をしている分につきまして御紹介をさせていただきますと、本年度、平成23年度に税率の改定をされた市町が伊万里市、嬉野市、有田町、太良町、以上の4団体でございます。それから、来年度、24年度から改定をすることが決定をされている団体が鳥栖市、小城市、以上2市でございます。

以上です。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

ちょっといろいろ言うていただきましたけれども、各自治体とも非常に財政厳しいということで見直しをかけているということですね。

これまで武雄市は3億6,000万円ほど、これ合併前ですけれども、一般会計からの繰り入れしておるわけですね。ただ、やっぱり合併後もこういった状況で2億円を超える累積赤字になっているといったことは構造的な問題ですね、国の問題が非常に大きいというふうに思っております。

この合併当初からここにおられる黒岩議員も、事あるごとに一般会計の繰り入れを国保の件ではおっしゃっていました。私もこれにはもう賛成であります。そういうことで、これが一般会計から繰り入れをするとすると、社会保険とか共済とか、こういったところのバランス、絡みもあろうかと思えますけれども、この累積赤字を解消するには、やはり一般会計からの繰り入れに頼らざるを得ないというふうに思いますので、ぜひ、これは黒岩議員がずっと提唱されております、一般会計の繰り入れ、ぜひ実現をさせていただきたいなというふうに思っております。

それから、あと県内の所得を見ますと、農業所得、県内これはすべてですけれども、米、麦、大豆、あるいは果樹、園芸ですね、こういったものを合算しますと、所得が平成19年が529億円あったんですね。これが20年度は488億円、21年度が478億円、2年間で農業所得、県内50億円下がるとです。ですから、こういったこの国保の加入者、被保険者といったものは、ほとんどの方が農業あるいは自営業で商売をなさっている、こういった方々がほとんどであります。こういった経済状況も踏まえて、やはり一般会計からの繰り入れを強く要求をしておきたいと思えます。

それと、次、最後に広域化ですね。私も広域化についてはぜひ推進をすべきだというふうに思っております。平成21年度の1世帯当たりの現年度分の調定額をいただきましたけれども、県内最低で13万円、平均が17万円、最高は22万円、各市町で調定額、倍近いばらつきがやっぱりあるわけですね。佐賀県の自治体を見ても8,000人から数万人の小さな自治体ばかりであります。そこで、今の所得が下がる、あるいは高齢化率が上がる、雇用が悪くなる、まちの財政状況もばらばら、こういう状況の中ではやっぱり安定した国保運営はできないと思うんですね。

そういう意味からすれば、今、市長とか部長が言われる広域化の部分については私も大賛成です。ただ、県内の広域化をしたからといって本当に財政が安定するのかといたらそうでもありません。そういった観点からして、今、執行部として制度的、財政的に今後どのような見通しになるのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

御承知のとおり、広域化につきましては、まず、後期高齢者医療制度が廃止をされ、この分が国民健康保険に、この方々が入ってこられるということになります。まず最初に、75歳以上の方々が国民健康保険に入られるということになりますので、この方々を広域化で統一しましょうということになりますので、市町村国保に入られるわけですが、75歳以上の方々の保険料は県内一律ということになります。したがって、現在とそう変わらないかというふうに思いますけれども、平成29年あるいは30年、ここら辺をめどに全体を統一しましょうということで、現在事務的な協議がされているという状況でございます。

考えてみますと、県内所得が各市町でばらばらであるわけですので、これを一律に統一をいたしますと、その中間ぐらいでまとまるというようなことになるわけですので、そのばらつきというものは幾らか出てくるというふうに思いますし、今後の医療費の動向、所得の動向によっても税率については変わってくるというふうに思いますので、現在固まっているわけではございませんけれども、そういった各市町の違いを乗り越えて広域化を行って、広域化することによってスケールメリットが出てくればというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

やっぱり広域化をしても、最終的な根本対策にはならないんですね。ここはやっぱり国の一元化が必要です。国保税を決めるのも国、そして国庫負担するのも国、そして給付をするのも国、これをやっぱり一元に管理していかないと、また格差出てきます、アンバランスが出てきます。ぜひここは市長、厚生労働省に働きかけて、ぜひ国で一元化した取り組みを

すべきだというふうに思います。今の民主党政権ではちが明かんといいふうに思いますが、ぜひこの部分については、全国市長会等でも議題として上がるか上がらんかわからんですけど、そういった動きをしていただきたいと私も思いますが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

きょうのニュース見ましたか、また民主党が内紛ですもんね。もうこんな国、日本だけです。与党の中でまた内紛が起きて、もう完全な無政府状態です。ですので、私からすると、やっぱりこれは本当の真つ当な統治機構がない限り、この要望を出してもやっぱり無理ですもんね。そいけん、早うおたくとか、おたくとか早う政権に復帰してください、もう本当。その上でしっかりとした国民政権をつくっていただいた上で、私はきちんと要望をしたいというふうに思っております。

これは何も政治運動じゃありません。本当に今、これそのまま行くと、多分内紛が起きて、3月多分総選挙って言いよるでしょう。総選挙ばする時間ああですか。被災地がこうなって、しかも国保なんかもう崩壊寸前ですよ、もう我々も、国も、地方も。そういったところで、ぜひ国会議員の皆さん方にはちょっと猛省を促したいというのと同時に、これちょっと話はずれますけれども、国会議員定数どがんなあつですかね。（「80減」と呼ぶ者あり）それじゃ、とても足りません。しかも、給料はどがんなあつですかね。これ多くの国会議員の方々も見られているそうです。きのうは恐ろしゅう見とんさあですもんね。そいぎ、何ば言いたかかというぎ、やっぱり国会議員とか政府が身を切る覚悟をせんぎんた、例えば負担増とかやっぱりお願いできんはずですもんね。

そういうことで、我々地方は武雄市、小さい自治体といえども100億円借金を返しました。職員の給料も上げんで、議員の皆さんたちの給料も上げんで、すみません下げました、思い切り。その中で、我々は懸命な努力をしながら合理化ばして、足らざる分についてはお願いをするということをぜひもう肝に銘じてほしいとやっぱり思いますよ。そうしないと、この国はまともな方向に行きません。

以上、そのように所感を申し述べました。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

本当に国の対応はつまらんですね。選挙のときにはいいこと言うて、衆議院は80人議員を削減する、参議院も40人程度削減するといつて当選、政権をとられたんです。これが全くやれない。本当にまやかしの政権だといふうに言っておきたいといふうに思います。

それから、今るる今後の動きも含めて答弁をしていただきましたので言うことございませ

んけれども、まず、この赤字を解消するためには平成29年が広域化、合併の目途でありますので、ぜひ庁内で、今23年度であります。あと数年ありますので、この中できっちり時間軸で目標設定をしていただいて、改革に取り組んでいただくよう強く指摘をしておきたいと思っております。

それから、次に行きます。ICT自治体の先進的な取り組みというふうなことで通告をしておりましたけれども、情報化の進展に伴いまして、自治体においても情報化の重要性、非常に増してきております。そういう中で、武雄市役所は全国に先駆けていろんな打ち手を今打とうとされておるところであります。また一方、市民の皆さんもインターネットに触る機会、使う機会、非常にふえてきたんじゃないかなというふうに思っております。

(パネルを示す) これはちょっと私の考えだけですので、違うところもあると思っておりますけれども、自治体のICTのコンセプトということで、市役所と市民、あるいは企業とか、そういったところをインターネットというツールで結びましょと、そこで情報をお互いに相互にやり取りをしますということなんですね。それを切り口に今武雄市が使っているのがフェイスブック、我々が目指すところは地域の活性化、産業の活性化ばしたかわけですね。そのために今やられているのが11月からF&B良品TAKEOですね。それから、事務の簡素効率化、これはやっぱり行政の手続をワンストップ化させていく必要があるというふうに思っています。あっち行ったり、こっち行ったりというやり方をやめる。それから、住みよい市民生活ということで、素早い行政情報を、いいやつも悪いやつも流してやる、災害情報もリアルタイムに発信をする。また、これ以外にも3番議員からお話ありましたように、学校教育のICT化などもあると思っております。

こういったコンセプトを実現していくためには、やはりパソコン人口をいかに拡大していくかと、ICTのリテラシーをどれだけ向上するかというのが非常に大事になります。そういうことで、平成23年度におきましては、この寺子屋事業を展開していただいたわけでありましてけれども、まずその状況について内容をお知らせいただきたいと思っております。

#### ○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

#### ○山田つながる部長〔登壇〕

フェイスブックとかツイッターなどICTを活用するというふうなところで、武雄市ICT寺子屋事業を平成23年度に実施しているところでございます。

パソコンとかインターネットの使い方、それからフェイスブック、ツイッター等の利用方法を教える講習会、その講習会の修了者が集まって教え合う勉強会、それから電話等による操作のサポート、そのような内容を実施しているところでございます。

(パネルを示す) これがICT寺子屋講座の風景でございます。このような形で小学生といますか、小さい子どもさんから大人の方まで一緒に勉強をしてもらっているというところ

ろでございます。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

すばらしい写真を見せていただきましたけれども、ちなみにどれくらいの方数がおられるのか、それと年齢構成ですね、どういった方々が受講をされているのか、もしわかれば教えてください。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

ICT寺子屋の受講者の中身でございますけれども、6月から始めまして現在12月ということで、6月は36人ということで非常に少なかったわけですが、（紙面を示す）すみません、資料が小さくて申しわけございません。7月は147人、8月は142人、9月は170人、10月になりますと197人ということで順次ずっとふえているというふうな状況になっておりまして、あと年齢的には非常に高齢者の方といったらあれですが、60代の方が一番多いということで、この10月で申し上げますと95の方が60歳代ということで、次が50歳代の47人、次が70歳代の32人というふうな数字になっているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう少し平たく言うと、武雄自動車学校と同じなんですね。どういうことかと申し上げますと、車の免許を持たなくても生活はできます。しかし、免許をちゃんと受講してお金を払ってとると、もう皆さんおわかりだと思えるんですけども、その生活の幅とか豊かさが、以前免許を持たないときよりも人によってはもう何十倍と広がっていくということだと思えるんですよ。ですので、これについては全く車の免許と同じです。ですので、こういう受講をすることによって、行きとうなかねという方々もいらっしゃいますけれども、これを受けて、そういう技術を身につけることによって、それが広がっていくということになります。

じゃあ、例えば、私の父親はもうIT超弱者です。そいぎ、どういうことばしょおかというぎん、うちの妹に、息子にあいば書けとかって言いよるわけですね。ということは、車の同乗と一緒になんですよ、車の同乗と。ですので、そういったITの利用の仕方もありますので、ぜひ、先ほどICT寺子屋ありましたけれども、もっと我々としても広報をしていこうと思っていますので、ぜひ、門をたたいていただければありがたいと思います。IT弱者だった山口昌宏議員も、このごろメールでばかばかしよんさあですね。やっぱりもう年齢は関係ありません、もう好奇心だけです。ですので、そういう意味からも山口昌宏議員ができん

さあとやあけん、もう皆さんたちもできるというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ちょっと余談になりますけど、私の義理の母も定年退職して、去年まで携帯電話も持たんやったですね。パソコンは二、三年前に買うとったばってん、ノートパソコン使いよらんやった、使い方もわからんということでおしとったです。寺子屋事業にお世話になって、もう二、三カ月になりますけれども、もうこの前、突然フェイスブックに登録して、友達申請が来るんですよ、市長のところにも来たと思いますけれども、そのように、本当に高齢者の皆さんも非常にすぐ（発言する者あり）いや、高齢者も多いんですよ、非常に多い、受講生ね。やっぱり今まで一生懸命仕事をされて、そういうパソコンに触れ合う機会がなかった方たちがぜひ利用をしていただきたいというふうに思います。

そこで、この事業費ですね、23年度はどれぐらい事業費をかけられたのか。それとまた、新年度ですね、どれぐらい事業費をかけて、これ展開されるつもりなのか。ぜひ、この事業については、まだ単年度でやめるのではなくて、複数年でぜひ継続をしていただきたいというふうに思っております。いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

I C T寺子屋事業につきましては、緊急雇用の創出基金の事業を活用いたしまして、23年度につきましては約1,300万円ほど活用させていただいているところでございます。非常にI C T寺子屋事業につきましては好評でございますので、24年度につきましては、新しい公共の場づくりのためのモデル事業ということで申請しまして、これについては内定をいただいているところでございます。

あと、先ほど申しました緊急雇用創出基金事業等を活用しまして、24年度につきましても現在同じような内容で質、量とも落とさないような形で取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ぜひ質、量落とさないようにお願いします。

余談でありますけど、このパソコンをすることによっても、やはりさっきの国保じゃないですけど、健康を維持できるんですよ。本当に勉強になります。脳の活性化にもなりますので、ぜひこれは推進をしていただきたい。そういうことで、ぜひお願いをしておきたいと

思います。

それでは次ですね、これも3番上田議員のほうで質問ございましたけれども、F&B良品TAKEOですね、この取り組みについて若干お伺いをさせていただきます。

この取り組みについては、武雄の特産品をネット販売するというシステムだというふうに認識をしております。これまでのレモングラスといえば、どちらかという流通経路を見てもみますと、大型店に売り込み攻勢をかけていくやり方だったんですね。これがやっぱりちょっと切り口を変えてネット上でやっていく。このことによって情報発信ができる。それによってブランド化も図れる。そして、生産者の売り上げにつながる。僕は一石三鳥の取り組みを今先進的にやられているなというふうに思っておりますけれども、この内容について、もう少し詳しく市民の皆様にお伝えをしていただければというふうに思います。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

（パネルを示す）これも何回か出しましたけれども、武雄市のホームページをフェイスブックに移行して、月平均今まで5万人だったのが、今、8月1日から12月6日までのデータなんですけれども、1,300万人を超えています。その方々が武雄市のフェイスブックページをごらんになっていただいているんですね。月に直すと330万人の方が見ておられるということ。単に、この人たちにってもらっているだけではもったいない、物を買ってもらおうということ、しかも地元の地場産品を買ってもらおうということ、大手の通販の会社は広告料まで含めると、手数料を含めると5割とられるんですよ。例えば、1万円の物を売りますといったときに、自分の手元に残るのは流通費等々を含めると恐らく2,000円ぐらいなんです。ですので、大手の通販会社に武雄で結構売れよとああじゃなかですか、例えば物産館とかさまざまところかありますけれども、みんな引いているのは手数料のばか高さにあるわけですね。我々は行政です。行政は手数料を取って運営する必要がありません。ですので、本当にいいもの、真っ当につくっていただいているものをフェイスブックに載せる。そうすると1,200万人のうちの3割が見たにしても360万人ですよ。その人たちが買ってくださいということとあって、今回私どもだけです、これ全国で初めてなんですけれども、我々しか技術を持っていませんので、フェイスブックページに直接買い物かごを載せると、そこから物を買ってくださると、出展者の方々は手数料もただだし、写真も我々が撮りに行きますし、これが行政の仕事なんですよ。

どういうことかという、これがあることによって、売れば地域の皆さんたちの所得の維持向上につながっていくわけですね。今度、武雄の山内町の船の原の農家の方の兼業農家です。兼業農家の、これ普通市場に出んですよ、しかも物すごくおいしかです、私もいただいて食べます。これを御田中（みたんなか）米として出したところ、飛ぶごと売れよおとで

すよ。2,100円です、送料込みです。本当だったら、通販に出せば2,800円ぐらいになるわけですね。それ、だれも買わないですもん。だけど、さっきの手数料を入れない形で料金設定しておりますし、ゆくゆくは黒岩議員からも御指摘があったように、ここはきちんとF&B良品TAKEOそのものがもうかることによって、その流通に入れることにできれば、流通費も入れることにできればさらに安くなっていくんですね。

(パネルを示す) 今までの実績ですけど、これはページです。今、立ち上げの11月7日から11月末までの売り上げ、まだ20日間ぐらいですね、約20万円です。これだけやっぱり売れるんですね。我々が目指すところは3年間で1,000品、そして、年商10億円を目指す。これがまだ夢物語です。みんな私がこいば言うたら笑いんさあですもんね。でも、やっぱり行政が夢ば描かんぎ、だれが描くですか。しかも、やっぱり所得が上がらんぎ元気にならんです。しかも、農業経営者の方々の元気がなからんぎんた、小池副議長がふうぎんさあです。ですので、そういったことで進めていきたいと思っております。

そして、全体の仕組みなんですけれども、これは武雄市の特産品等を中心として、これから本市と縁のあるところも出していこうというふうに思っています。例えば、陸前高田の商品、これは被災地支援にもなります。被災地支援にもなりますし、新潟県三条であるとか、福岡市であるとか、我々と交流の深いところも出す。出して、その上で選定委員会のアドバイスをいただきながら載せていきたいというふうに思っております。

今、8品しかありません。私は、言うことは思い切り大ぶろしきで言いますが、実際始めるときはこまかですもんね。ですので、1月は20商品以上のラインナップを考えており、商品をどんどんふやしていきたいと思っております。

そして、あしたになりますけれども会見を開きます。会見を開いて、今度はこれが全国に広がる仕組みをつくりたい。織田信長は楽市楽座を長浜城下だけだったです。私は議会の力を借りて、この楽市楽座を全国、世界じゅうに広げたいと思っております。これは、あることによって、武雄のみならず地域に、不便なところに、僻地にお住まいの方々が本当に、ああ、自分たちがここに住んでよかったと、こういう生産をしてよかったって、しかも、それが所得につながっていくってことを、ぜひロールモデルとして被災地支援と同じぐらい議会の力をかりながらこれを進めてまいりたいと、このように思っております。

いずれにしても、このF&B良品TAKEOというのは、全国初の取り組みでもありますし、さまざまなまだ課題がありますけれども、ぜひ議員の皆さん、これからお歳暮シーズンでございます。——余り言うぎんいかんとか。はい、やめておきます。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

時間もありませんので、（パネルを示す）このF&B良品TAKEOが一番いいのは、や

はり店に買い物に行かなくても物が買える、これは顧客にとって一番のサービスだと思うんですね。逆にもう1つは、生産者から言えば、店に売りに行かんでも買うてくんさあわけですね。お互いメリットがありますので、ぜひこれやっていただきたい。

そして、これは武雄になじみがある全国の皆さん、そして、なじみはないけど初めてだという方もいつでも、どこでも商品が買えるようになっておりますので、ぜひF & B良品TAKEO発でやられますけれども、これがさらに飛躍することを期待したいと思います。

それでは、次に行きます。

次に、行政手続のワンストップ化ということで事務の簡素効率化についてお伺いをいたします。

ちょっと1点だけ事例でございますけれども、今、市民の皆さんからよくお話あるのは、市役所に申請に来たときに非常にたらい回しをさせられるとか、あるいは行ったり来たりさせられるということをお聞かすんですね。これをぜひICTに置きかえていただきたいというふうに思います。例えば、転入手続のとき、新しく転入される方は市民課で転入届を書かれます。子どもさんがおられたら、例えば子ども手当の申請を支援課に行く、医療費の無料化を申請に行くとか、あるいは未来課のほうで保育園の申請だとか乳幼児健診の申請をする。健康課で国保、あるいは国民年金、後期高齢ですね、介護、こういったものの手続をする。あと福祉課に行ったり、教育課で奨学金の手続をしたりと、ここに挙げているのは一部分でありますけれども、こういった手続が発生をしております。で、行ったり来たりと。これをぜひICT化に乗せていただきたい。転入届を転入される皆さんが基本データだけ書いていただければ、それを職員がパソコンに住所、氏名、年齢、家族構成、それぞれの条件を打ち込んで、そして、それに必要な書類がプリントアウトされて出てくる。そこにはもちろん名前とか、年齢とか、住所とか、いろんな必要なやつがもうパソコン上で打ち込まれると。それを担当課に持って行って処理をするということで、このワンストップ化をぜひ図っていただきたいというふうに思います。これは、黒岩幸生委員長、ICTの推進委員会を立ち上げておりますけれども、この前、山崎CIOをお呼びしてお話しをしたときも、この事例に近いものも出てきておりました。ぜひモデルとしてやっていただきたい、このように思っておりますけれどもいかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これ全く同感ですね。やっぱり市民の皆さんたちの意見に耳を澄ませると、またいろいろ回ったて、さっきつながる部長がこっそり、「いや、これはここ、ここ何とか課に行くごとちゃんと書いちゃあです」って言うて、それはそれで行政サービスだと思うんですよ。しかし、やっぱりわからんですもんね。私でもわからんですよ。うそです、わかっています。

ですので、そういったことからすると、やっぱり市民サービスをなるべく歩いていただかずにするというのはICTの力があればできる。ただ、これ市民の皆さんたちにぜひお訴えをしたいのは、これ番号制にせんぎ無理です、番号制に。そいけん、例えば、朝長議員1番、山口等議員2番、上田雄一議員3番というふうにして、4番、5番、6番、欠番というふうにして、そういうふうにやっぱり、そういう番号をして、そうすると番号に名前とか入るとるわけですよ。そこに、例えば家族構成とか、そういったことが入ると自動的にどこでも出るようにするんですね。ですので、これちょっと議会とまた別途相談をして、特にIT推進委員会と山崎耕史最高情報アドバイザーと協議をして、どこか地域を決めて1回試行の練習をしたほうがよかかなと思って、そうせんといつまでたっても机上の空論ですもんね。ですので、これは御理解のいただけるところに仮ナンバーを振らせていただいて、総背番号制というぎたまた聞こえの悪かけんですね。そいけんクレジットカードのごと番号を振らせていただいて、これが本当に行けるかどうか、技術的にはもうでくつとですよ。できますので、それをぜひ、来年年明けからプロジェクトチームをうちでもつくりましますので、IT推進委員会と山崎耕史さんと含めて協議を進めていきたいというふうに思っております。

それと、もう1つです。今の庁舎じゃあ、それをしても無理ですね。庁舎がそういうふうになつたらんわけですよ、なっていません。もうどんなにICTで頑張っても、そこは傍聴者の浅尾さんもうなずいておられますけれども無理です。ですので、そういったことも含めて、これはICTと庁舎の置き方ですよ、置き方を含めて同時並行に検討する必要があるだろうというふうに認識をしております。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

やっぱりシステムに置きかえようとしたときに、余り深いところまで考え過ぎたらできません。ですから、人間に頼るところは絶対残るんですね。それはもう担当課の窓口に行って処理をする。ですから、まず簡単なレベルからいいと思うんですね。ぜひシステム化をしていただきたい。そのシステム化するには、やはりマニュアルづくりが必要なんですね。手順書をつくらないかん。これは民間のISOの9000シリーズですね、品質管理マニュアルがありますけれども、仕事の業務フローをきっちりをつくって手順書に置きかえる、マニュアル化する、これが重要であります。ぜひ、これをつくり上げていただきたい。これは力仕事ですね。これをやっていただきたいというふうに思います。これをしておくことによって、毎年の人事異動、人が新しくかわったときの引き継ぎも簡単にできるようになります。ぜひ、このICT化、ステップを踏んでやっていただきたいというふうに思います。

それでは、ちょっと時間ないので、次に行きます。

被災地支援の取り組みでございます。チーム武雄の被災地支援の取り組み、それから瓦れ

きの受け入れについては今まで複数の議員が質問に立たれたところでございます。市長も息の長い支援をしていきたいということで、私も賛成であります。

市民の皆さんから、またボランティアに行く機会があったらぜひ行きたいという声がありますし、テレビ等の報道で見れば、今は東北地方はワカメの生産がスタートして、種の植えつけ時期なんですね。そこに今ボランティアの募集をされているというふうなことも聞いております。ぜひ、これどこに行くかわかりませんが、その地域の実情に合ったボランティアを来年度また計画を立てていただきますようお願いをしておきたいというふうに思います。

それから、瓦れきの受け入れですね。これについては今後、国の動きがどうなるかということで見守っていかなければなりませんけれども、私も震災から2カ月目の5月に市長、それから議長を初め8人の議員団で1週間、宮城県の若林区のほうに瓦れきの搬出作業、これに行ったわけでありましてけれども、やっぱり瓦れきの量、物すごい量ですね。

〔市長「物すごい量」〕

恐らく今もそうじゃないかなと思います、最近ちょっと行っていないんですけども。報道でもあっていますように、復興がやはりブレーキになっているのは瓦れきだと、瓦れき処理だというふうに伺っております。我々も何とかそこのお手伝いをしたいという思いはいっぱいあります。クリーンセンターのある地元の議員としては、原発による放射能を帯びた瓦れきの受け入れは断固反対します。しかし、その受け入れをするに当たっては、原発による放射能を浴びていない一般の廃棄物と同じレベルのものであれば、それは受け入れをぜひしていく、これは大前提として言っておきたいというふうに思います。これは市長と私も認識は一緒だと思います。何でもかんでも反対するつもりはありません。

今、地元では例えば受け入れをしたら、これ裁判にするというふうなことを地元川上でも言われている方がいます。こういうことに対してどういうふうに思いますか、市長。

〔市長「だれが言いよおと」〕

知らん。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

良広さん、あなたが言いようですか。

〔5番「いや、おいじゃなかばい」〕

いや、私もきょうちょっと実は、たまたまなんですけれども、あるお寺の私は壇家でありますよ。そのときに橋口春俊さんっていう元市議、私はほとんど面識ありませんけれども、この方が言うたっていうふうに聞きましたよ。一般人だったら私はそんなこと言いません。ですが、市議ばしよった人が、三者協定っていうのがあります、地元には、あるいは二者協

定ってという言われ方もされますけれども、これに重大な違反ばしとおて。そいぎ、これ裁判すっぎんた市長に勝つもんねと言うたらしかですもんね。これ、複数から私聞きましたよ。

そういうふざけたことを言っちゃいけませんよ。どれだけ被災地の方々が苦しんでおられるか。しかも、私も再三申し上げていますが、瓦れきを放射線をつけたとば持つてくるなんて一言も言うたらんでしょ、上田議員、言うたらんでしょね。それなのにね、地元ですよ、私も川上です。うちのじいさんは区長やったです。そのときに、やっぱり武雄のためというて住民ば説得して回りよったですよ。それにもかかわらず、そういうことを御存じでしょ、彼は。ふざけていますよ。人の話を聞いて、ちゃんと反対するなら反対するでよかですよ、それはよかです、それはいろんな考え方もありましょ。しかし、人の話を聞いてから、特に地元の話も聞いてから、その人役員なんですか、何かの。全然違うでしょ。しかも、そういうふうなお寺で、しかもそういう壇家さんに対して、そういうふうにもし市長が受け入れるってなったら裁判に訴えて勝つもんねっていうことに関して言えば、私は本当に激しい憤りを、もうめったに私は怒らんですよ。もう栄八さんとがんすつときも全部演技ですよ、私は。しかし、今回だけは怒りました。ですので、そういうふざけたことを言わないでほしいというふうに思っております。

あわせて、もし私が申し上げたことが間違いだと、言うたらんということであれば、それはまた教えていただいて、吉原議員でも通じて教えていただいて、その上で私は陳謝をしたいと、このように思っております。今のままでは断固抗議をいたします。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

そういうことが言われているということに対しては、本当に心ないと思います、私も心なかばってん。ただ、やっぱりお寺の世界と、しゃばの世界は分けてしないと、何のためにお寺に行っているかわかりませんよ、市長。やっぱりお寺というのは、お父さん、お母さんに感謝をする、先祖に感謝をする、生かされていることに感謝をする、そういう場なんですよ。そこに政治の場を持っていくというのは、やっぱり私はナンセンスだと思います。この辺はもう少し良識ある行動を皆さんとっていただきたい。そして、中身がまだはっきりしていないんですよ。

〔市長「そうそう」〕

そこで裁判とか何とかいう話が出ること自体がもうナンセンスです。もう話したくありません。

それでは、次に安心・安全について質問させていただきたいというふうに思います。

子育ての安心・安全というふうなことで、私も朝日小学校の放課後児童クラブ、あるいは小・中学生の医療費ですね、入院医療費の無償化、これについて何度か一般質問で取り上げ

をさせていただきましたけれども、今回、本当に馬渡こども部長初めこども部の皆さんの努力によって、無償化の話と施設の改修の提案が条例と、それから予算措置というふうなことで上程をさせていただいたこと、本当にありがとうございます。感謝をしたいと思います。厳しい状況の中に、これ英断をしていただいた市長、本当に感謝を申し上げたいというふうに思っております。

そこで、馬渡こども部長のところを批判する不作為だと、仕事をしていないということですね、そういった記事が議会通信の中で出される。このことに対しては、本当に遺憾であるというふうに思っております。怠慢部にしたほうがいいというふうなコメントもあったわけですけれども、やはりこれは本当に市長、侮辱されているんですよ、市長の部下が。

〔市長「はい」〕

やっぱり怒らないかんですね。

〔市長「怒っていますよ」〕

怒っていますか。——ちょっと静かにさせてくれん。宮本議員、出して。一般質問されんやろ。

○議長（牟田勝浩君）

続けてください。

○12番（吉川里己君）（続）

そういうことで、僕は擁護するつもり何もなかですけど、このこども部、数十項目の仕事をされています。このように、確実に一つ一つ仕事はこなされています。ですから、その部を怠慢部にしたほうがいいのか、そういう言い方は絶対議員としてはやるべきではないし、そのことは公式の場で謝罪をしなければ、これはいつまでも尾を引くというふうに指摘をしておきたいと思います。市長、どうぞ。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

きのうの一般質問でも宮本栄八議員に私は質問をしました。やっぱりぬかにくぎ、馬耳東風、これだけ強い人は私は見たことがありません。私は、この方は議員を辞職すべきだと思いますよ。それはどういうことかと言うと、要するにルールを守らない人が議員でいることは武雄市議会の恥です。彼を選んだ有権者の人が気の毒です。ですので、一回議員をやめて、それで——議決を守らんぎですよ。守らんぎ、やめた上で自分の所見を自由な立場で、今も自由な立場でおっしゃっていますけれども、それを言うのがやっぱり人間としての私は務めだと思いますよ。本当に、——〔発言取り消し〕——というふうに思っております。

それは単に、きのうきょうの話じゃありません。今までさまざまなことを考えて、今回の議決破りというのは、僕は必然の因果でいうと、果の結果だと思っております。それを私の

ほうから申したい。それをしないと、やっぱり子ども部の名誉回復は無理ですよ。そういったことで議決をきちんと守るか、守らなければやめるということで私からは辞職勧告案内をしたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

これは執行部だけじゃないんですよ。懲罰委員会がつくられて、懲罰委員長の報告があった、可決した。そして、本会議でも懲罰で可決をしたわけでありまして。このことについては、やはり議会のルールを守らないというのは、ほかの真っ当な議員に対する本当に挑戦なんですよ。だから、そこを汚さないように、ぜひ謝罪することを僕は求めたいと思います。そこは議長、きっちりやっていただきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

いや、今までしよったたい。

○12番（吉川里己君）（続）

それから、安心・安全についてお伺いをいたしますけれども……

○議長（牟田勝浩君）

言いよったろうもん。（「うん」と呼ぶ者あり）

○12番（吉川里己君）（続）

庁舎の建設について、12月の段階で耐震結果が出るというふうなことでお伺いをしておりますけれども、その結果、出ていましたら報告をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

気を取り直して答弁をしたいと思います。

市庁舎の耐震診断の結果について、私から御報告を申し上げます。

まず、議員御案内のとおり、目標とする耐震性のI s値というのは0.69であります。これは、ぜひ念頭に置いていただきたいと思います。

普通、耐震の調査をやるときは、東西方向ともう1つ南北方向でクロスしてやるんですね。その結果を申し上げますと、まず東西方向のI s値を申し上げます。1階では0.5、2階では0.32、3階では0.41、4階では0.68、また、庁舎の南北方向については1階で0.31、2階では0.29、3階では0.32、4階では0.48となっており、これ、いずれも目標とする耐震性のI s値の0.69を全部下回っています。

さらに問題なのは、まだこの議会が低っかとはよかですよ、いいんですが、市民の皆様方が多くお越しになる、さっき吉川議員からも御質問があった2階ですよ、この2階の部

分については建物の耐力があると判定される、先ほどの0.69の半分にも満たないんですよ、半分にも。これ、驚くべき話であります。今回はちょっと数値だけちょっと申し述べますので、答弁については最初はこの辺にさせていただきたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

耐震性のI s値について今報告をいただきましたけど、やはり建物の強度とか、粘りとか、あるいはバランス、こういったものを総合的に判断して半分以下にしか評価されていないということですね。本当に約半世紀たちますので、ぜひ、その場しのぎの耐震化補強だけじゃなくて、やはり全体的なフロアのレイアウトも含めて、時代に合ったものにしていく必要があるというふうに思いますので、ぜひ新築の方向でお願いをしたいと思いますし、今度の東日本の大震災で合併特例債が5年間延長になったわけでありますけれども、このことによって、今後庁舎のあり方についてどのような進め方をされるのかお伺いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

合併特例債の5年間延長については、まだ決まったわけじゃありません。これ一部ちょっと報道が先行いたしましたので、これはちょっと注意深く見る必要が、多分大丈夫だと思うんですけど、まだ本決定はしておりません。

その中で、私どもとすれば、まず、市民の皆様方に強くちょっと訴えたいのがやっぱり今の庁舎なんですね。これは以前、山口等議員にお答えしたと思うんですが、長崎新幹線がルートになっていますので、（パネルを示す）これだけ食われるわけですね。そうなったときに、具体的に言うと、面積で言うと2,135平米です。全体敷地の21.8%が、この新幹線用地でおとられるわけです、標準語で言えばおとられます。しかも今、皆さんお車に乗られて来ております。来ておられて、駐車場台数でいうと86台の駐車場がこれでだめになるわけですね。ですので、もし建てかえるということになった場合には、それはもう高層ビルしかなかわけですよ。だって横のなかとですけんね、しかありません。ですので、こういったことも含めて、どこに建てるか云々、あるいは建てないかも含めて、診断結果を含めて庁舎のあり方について本格的な検討に入ってまいります。

今、もう少しちょっと時間をいただきたいのは、さっきI s値についてちょっと申し述べましたけど、もう少しこの報告書について詳しく分析をします。分析をした上で検討委員会をきちんとつくって、それもオープンにします、オープンにした上で皆さんたちから意見を賜ればありがたいというふうに思っております。

そして、長崎新幹線なんですからけれども、その補償にかかる調査を現在行っています。だか

ら、幾らで補償できるかですね、補償して下さるかということについては並行して調査を行っていくことを申し述べたいと思います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

それでは、よろしく願いしておきたいと思います。

あと、9月に行われた防災訓練がありましたけれども、この取りまとめも12月ぐらいまでにやるということだったんですけれども、原子力発電の事故を想定した訓練ね、それから、水害を想定した訓練、何かまとめられたところで大きな課題等あったら簡潔にお願いします。

それから、それ以外にいろんな動きをこれまでされてきたんじゃないかなというふうに思います。何かありましたら簡潔にお願いいたします。時間がありません。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

一般の反省点、あるいは課題でございますが、全体的に情報収集のやり方、それから避難勧告等の早期の判断をどうするかと、避難所の整備とか、あるいは各関係機関との連絡調整というのが課題として上がったというふうに思っております。

今後、地域防災計画の改定の中に原子力災害編の追記、あるいは災害姉妹都市等の提携、災害応援協定締結の推進、医師防災組織の設置、災害時要援護者の避難支援体制の確立等を追記したいというふうに思っております。

それと、お約束しておりました検証レポートについて、議員の皆様、市民の皆様にも近々配付したいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、答弁とはちょっと関係ない話なんですけれども、先ほど私が〔発言取り消し〕と宮本栄八議員に申し述べたことは、これは取り消させていただきます。議長から強い指示がありましたので、これを受けて取り消させていただきたいと思います。勧告についてはそのまま残しておいてほしいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

最後1点ですね、ちょっと時間ありませんので、（パネルを示す）消防について、これは

6月議会で消防団、消防団員の活動の環境改善をぜひ進めてほしいということで6項目お願いをしておりました。早速、この3項目めの年末警戒については対応していただいたということで、これまで28日、29日、30日の3日間、早朝4時まで対応されていたものを29日、30日の2日間、午前0時までということで見直しをしていただいたということであります。これについては、消防団の団長の川口団長、それから、ここにもおられます末藤副団長、非常に御尽力いただいたというふうに聞いております。このことに対して、市長どのように思われますか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この件については、やはり川口団長の決意が99%です。いろんな異論、反論があったというふうに聞いていますけれども、やっぱり団員のためであるとか、地域の皆さんたちがやっぱり年末年始ぐらい御家族と一緒に過ごすという温かい御配慮、そして、それを支えた末藤副団長ですね、本当に感謝を申し上げたいと思います。これによって、武雄市の消防団というのは本当に感謝をされると、地域の皆さん方も感謝されるし、若い消防団員の皆さんからも感謝をされると、よく踏み出してくれたなというふうに思って感謝を申し上げたいと、こういうふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ありがとうございます。

それでは、あと5項目ありますけれども、何か進展があるものがあったらお知らせください。なかったらよかですよ。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

消防団の活動環境の改善について進展があったものについてですが、火災メールの登録、これにつきましては、6月1日時点で490名でございましたが、今回12月1日時点では552名ということで4.4%の登録者の増加というふうになっております。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

少しずつふえておるようであります。100%目指して頑張っていただきたいなというふう

に思っております。

ことしもあと残すところ2週間余りというふうになったわけでありましてけれども、安心・安全を目指して、また住民福祉の向上に向けてさらに頑張ってくださいをお願い申し上げます。私の質問を終わります。

○議長（牟田勝浩君）

以上で12番吉川議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、5分程度休憩いたします。

休 憩 11時11分

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、5番山口良広議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

おはようございます。最後の登壇ということで、皆様からいろんな意味で期待されております。私なりに責務を一生懸命全うし、武雄市発展のために頑張りたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

前の古川議員とは、ありましたようにチーム武雄のメンバーとして私も3班の仲間として陸前高田市のほうに行きました。私は農業者です。そんな中で一番感じたのは、潮水を受けた畑で10メートルに近い高いところでハウレンソウや白菜、大根が元気に育っていました。ああ、農業というのは捨てたものじゃないなということをつくづく感じたわけです。

そんな中で、そこのおじさんと語りました。いろいろ災害はあるけど、農業ば一生懸命しようないばよかばいということで、私たちは畑の開墾というものをお手伝いしたわけです。そこは、もとは屋敷が建っていたところをスコップや前打ちで耕しながら、石や瓦れき、ガラス等を拾ったわけです。そして、最後には大根をまくまでになりました。今後、農業者としていろんな形で災害派遣があれば、我々は今後、農地の修復のためにできるようなボランティアがあれば、もっと行ってみたいなというものをつくづく感じたわけです。

そんな中で、今回、私は一般質問では農業問題、TPP問題における武雄市農業振興対策を取り上げようと思っております。それと、道路対策についてお尋ねします。

ここで質問です。環太平洋パートナーシップ協定、いわゆるTPPはどんなもので、これで日本国としてどのような影響が考えられるのか、まずお尋ねしたいと思います。

〔24番「私語をせんで市長として答弁してよ」〕

〔19番「答弁はすっくさんの」〕

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

谷口議員にちょっと注意してくれんですか。やっぱりですね、ああいうふうな陰口をこういうふうに表の場で言われるということになると、せっかくまじめに答弁しようというふうな人たちが本当にかわいそうですよ。これ、宮本議員が怠慢部と言うたのと一緒です。ですので、議長までしんさった方がね、そがん細かことばもうくだくだ言うとはね、僕はどうかと思いますよ。

答弁をいたします。

その中で、TPPというのは、簡単に言えばですね、関税をゼロにする。そして、日本と加盟国アメリカの独特な商干渉があります。これをなるべくアメリカ型の統一したルールにしましょうということが、2つがポイントなんですね、TPPの。

日本の課題というのは、じゃ国益として、医療分野とか26分野ありますけれども、農業もそうですけれども、これに乗っかることが国益として本当にいいのかどうかということなんです。ですので、全部、私はTPPがだめだと言うつもりはありません。例えば、僕は医療なんかはTPPに入ったほうがよかと思うとですよ。がんも閉鎖的なところでね、もう高い医療で、確かに吉川議員がおっしゃったように、世界一の医療というのはそれは私も認めますが、がん不平不満の出るところはなかわけですね。そがんところは、もうTPPに入って鍛え直したほうがまし。しかし、農業は別です。やっぱり関税があるけんが守られておる部分というのはあるわけですよ。そういったことで、全部TPP反対とかということよりもね、一つ一つに向けてこれはいいとか悪いとかというのを判断するのが必要だと思います。

ただ、問題は、もうみそもくそも一緒なんですよ、TPPは。農業だけ入りませんとかというのはできんわけですね。全部含めてありますので、そういった意味で私は、これは公明党も同じことをおっしゃっていますけれども、TPPについては全体としては私は反対です。

#### ○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

#### ○5番（山口良広君）〔登壇〕

私は、農業についてこの問題を検証したいと思っています。

私は、米を考えたときに、関税率は700%と言われております。仮に現在の米価を60キログラム当たり1万6,000円とします。それが段階的に10年かかって7分の1となり、2,700円の国際価格となったとします。日本の、武雄の農業はどうなることでしょうか。その前に、米の米価が外国からの輸入米との競合で3割安くなったと考えますと1万2,000円です。そうなった場合、共同乾燥施設のライスセンターや減農薬でコスト低減の農薬散布、ラジコンヘリ等は利用がなされるでしょうか。確かに民主党は戸別所得補償ということで農家生活は守ると言っています。本当に信じていいのか、それだけを信じて今のままでいいのか、武雄として何か施策はないのか、それを私は検証したいと思います。

パネルを紹介します。（パネルを示す）ちょっと私の腕ではパソコンから持ち込みましたら、ちょっとずれてまして、これが僕の技術ですので、この後、寺子屋でも行って勉強したいと思います。

これは大型のコンバインで稲刈りをしている風景です。そして、これはカントリー、米の貯蔵庫です。こういうふうな形で米を貯蔵しているのが稲作農家です。これはアメリカの稲作農業地帯です。（発言する者あり）その前に、まずパネルでアメリカ、オーストラリアの

農業を紹介しますということの語句を忘れていましたので、すみませんでした。

その後が、（パネルを示す）これもアメリカの畑作農業です。これはパイプラインです。このようなパイプラインの先に水を流す装置ができておりまして、かん水をしたり消毒をしたり、延々と先まで続いているわけです。

こういうふうな農業をやっているのがアメリカです。100ヘクタールとも1,000ヘクタールともいわれ、農場では大型の機械と飛行機を利用しての農薬散布、種まき。しかも日本の気候とは大違いで雨量の少ないところでの農業、それだけでも病気の発生も少ないのです。しかし、地下水の大量くみ上げなど自然破壊をやっております。

次です。（パネルを示す）これは2011年10月31日に世界の人口が70億人を超えたという資料でございます。1950年、くしくも私が生まれた年、25億人。そして、私が38歳のとき、38年たってから50億人、倍になりました。それで、それから22年、ことし70億人です。そして、2050年、私が100歳になったときに93億人という人口になるわけです。このように世界の人口はふえているわけです。国際連合食糧農業機関によれば、こんな中で毎年500万人以上の子どもが飢えて死んでいる。3秒に1人の割合、毎日3万人以上の子どもが栄養失調や予防可能な病気で亡くなっています。そんな中、日本はいつまでも食料を世界に頼っていいのかということです。

また、この前の日曜日、医師会館で行われました地域医療を考える講演では、北海道の夕張のセンターの村上センター長の講演がありました、先ほど吉川議員が言いましたように。その中で、私は大事なところを感じました。大豆は食品の中でも健康食品である。しかし、今の大豆は不健康食品の代表でもあるとも言われました。それはポストハーベスト、すなわち生きた食品だから、アメリカから日本に来る間に腐れてはいけなから、認められている殺菌剤をしこたま散布されて日本にやってくるわけです。薬剤散布の基準は守っているけれども、安全な食品ではないと言われています。（「そうだ」と呼ぶ者あり）私は、大豆は遺伝子組み換えさえなければ安全だと思っていたのです。しかし、現実はそうでないと聞きました。

その点を含めて、次に市長です。日本の食料事情、農業政策をどう考えられるかお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕の意見は少数派だと思いますけれども、あえて言うと、日本の農業は徹底的に保護をすべきだと思います。もう補助金は入れてですね。もうこれね、安全保障なんですよ。食料がなかつたところに、だれが発言力のあるですか。

それと、もういっちょですね、私はたまたま総務省時代にアメリカに出張したことがあり

ます。サンフランシスコに帰るときに、ちょっとおもしろかとは見すっけんと言って大使館の人に連れて行かれたところが港でした、サンフランシスコの。「これ何ですか」と聞いたら、グレープフルーツのもう山ごとコンテナにあったですもんね。そこにシャワーば幾らでんかけよんさつとですよ、ばしゃばしゃやって。「これはきれいになってよかですね」言うたぎんた、「ふうけたこと言うぎいかんですよ。これは全部農薬ですよ」と。もうそいば聞いた瞬間、もう食べる気うせたですもんね。日本の話じゃありません、これはアメリカです。そういう説明もありました。

そいぎ、「これアメリカの人は食べよんさあと」て聞いたとですよ。うんにゃ食べよんされてんて。日本に出すとば、さっき言いんさつたごと、腐らんごとすつためにこれ出しよるて。そいぎ、村上先生も大豆も同じと言いんさつたですもんね。そいけん、大豆ばいっぱい食べよるところ、外国産ですよ、食べよるところはやっぱり発がんリスクの高かかもしれんというところまで言いんさつたです。

そいけんが、何を言いたいかというのと、やっぱり我々が食べんばいかんとは、橋下の大豆とか橘の米とかですよ、もう目に見えてやっぱり良心、良識あるお米なり農産品ば食べるとはですよ、それがひいては国民の、良広議員も私も健康を守るすべなんですね。安かけんがよかろうもんじゃなかわけですよ。スーパー見るぎわかるじゃないですか。豆腐の1個ですよ、この前、8円というとのあったですよ。8円ですよ、豆腐が。（「8円」と呼ぶ者あり）うん、セールスで。それ、ぱつと見たぎんた中国ですもんね。もういっちょこっちにね、14円というとのあったです。ぱつと見るぎんたアメリカの遺伝子組み換えの何とかと書いてあったですもんね。それで、こっちに国産とのあったです。確かに高いですもんね、1個200円ぐらいします。

これは、消費者にも強く言いたいと思います。安くてよいというのはありません。やっぱり高くても、それは自分の子どもたちとか御家族の健康を守るためにはね、やっぱり国産品を買いましょう。それは、単に農業生産者に言うだけでは酷です。やっぱり真心込めてつくってくださいとば我々は買わんばいかん。そういうことをね、ぜひ消費者の皆さんたちにも訴えたいと思います。これ、だれもマスコミはやっぱり書かんとですよ、そのことは。もう保護が悪かとかすつぱたの書いてね、それは間違いです。やっぱりそういうふうに農業のやっている方々の所得が上がり、そして、つくってくださる方を我々が地産地消をするということを強く訴えていきたいというふうに思います。同じですよ。

〔5番「はい」〕

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

（パネルを示す）この表は日本の食料自給率ということになっております。オーストラリ

ア、カナダ、アメリカ、フランス等は173%、168%と上がっていますが、日本はここでは、39%です。いろいろ言いながら、いろいろ汚染されたものを食わなくちゃいけないのが今の現状の食料ということを理解してもらいたいと思います。

では次に、武雄の農業政策を検証したいと思います。

まず、集落営農についてのお尋ねです。

米、麦、大豆についてはコスト低減と大規模化が必要とされています。そのためには、市内でも10町歩あたりをつくる大規模なる経営者もおられます。それと、集落営農での取り組みが行われています。10町歩の大規模なる経営者が独立することも大事でしょう。それと同時に、今の武雄の農業を考えますと、集落営農が大事だと思うわけです。

そこで質問です。市内ではどれぐらいの集落営農の数があるのか、そして、その中でモデルになるような営農組合があったら紹介してもらいたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

森営業部長

**○森営業部長〔登壇〕**

市内の集落営農組織の数は47組織でありまして、そのうちでも農業共済組合で、組織で加入している共済資格団体というのがありますけれども、これは27組織です。

それで、モデルになるような営農組織ということですが、水稲、大豆、麦の農作業の受託を行っている中野みつばの集落営農組合と、あと共同乾燥施設を核とした大規模経営、これは220ヘクタールですが、営農経営の省略化を目的に大型農業機械導入による基幹作業の共同化を行う橋下営農組合などがあるかと思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

5番山口良広議員

**○5番（山口良広君）〔登壇〕**

今言いました中野みつば、そして小池議員がしておられます橋下の営農組合、それに私は朝日にあります繁昌の営農組合、これも特徴があると思います。繁昌の営農組合というのは、自分たちが持っていた農機具を大事に使いながら地域でまず農業をやり、それを集団の中でやるということです。それは中野みつばも一緒です。でも、一番大きなのは、中野みつばは集団で経営し、田んかを一つ一つ、次の田んぼ、次の田んぼというふうな形で作業をこなされていきます。その2つはコストが大分下がっております。それをまとめてやっているのが橋下のライスセンターの組織ではないかと思っております。ぜひこんな集落営農というものを今後推進してもらいたいと思っております。そのためには、この3つの地域の特徴と言えば、納得するまでの話し合い、そしてみんなの土地でありながら、自分の土地は大事にして草刈りや草が生えていたら草取りなどの作業、そしてガラス張りの会計と、この点が個人の力でできるもの、共同の力でやるもの、会計の健全化、そして何よりも包容力のあるリーダーが

おられるということです。こんな組織の中で武雄の米、麦、大豆の振興をぜひやってもらいたいと思います。

次に、施設園芸や畜産に対する振興策はどんなものがあるのかお尋ねしたいと思います。

ハウス資材の高騰、飼料代金の高値、それに加えて販売価格は安く抑えられています。そんな中で、キュウリ、イチゴ、畜産物のブランド化、そして農業所得の向上、大事なことと思いますけど、これに対して武雄市としてどう取り組んでおられるのか、お尋ねしたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

森営業部長

**○森営業部長〔登壇〕**

今、武雄市で生産されている農畜産物の中では、キュウリを初めイチゴやチンゲンサイ、ゴーヤ、アスパラ、それに若楠ポークなどがブランドになりつつあるかと思っております。外国産や国内のほかの生産地と価格や品質で競争できるような特色のある地場農産物を育成することが大事かと思っております。そのためにも、産地の団地化、あるいはフェイスブックを使ったF&B良品TAKEOでの情報発信、あるいは地域限定、これは武雄に来ないと食べられないといったような、そういった特色ある産品をつくっていくことが大事かと思っております。そのことによって武雄市の農畜産業の活性化を図ることが、農業者の生産意欲の向上、持続性のある農業につながっているかと思っております。

そのためにも、施設園芸や畜産、農産それぞれ技術支援や各種補助事業がありますけれども、そういった事業を活用して意欲ある農家の育成、振興を図っていききたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

5番山口良広議員

**○5番（山口良広君）〔登壇〕**

今、冬場になりまして、ハウス農家では油がまた上がるんじゃないかということで大分心配しております。事実、また上がっております。

そんな中で、武雄市ではいち早く三層張りということで、ビニールの多層ビニールということで被覆の取り組みもなされております。ぜひ先進的な技術等がありましたら、農業改良普及センター等の指導を得ながら、ぜひいち早く取り入れられてコスト低減への道というものもつくってもらいたいと思います。

それと同時に、武雄市長はトップセールスとして元気な力を持っています。いろんなところへ市場あたりのお願い事で生産者も行っております。そんなときは、ぜひ農協と市役所の担当とが連携をとりながら、都合のつくときに一緒に足を運んでもらって、デパートでの販売等に御協力してもらいたいと思います。よろしくお願ひしたいんですけど。

〔市長「答弁」〕

お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

よろしくをお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひそういう声が届くように風通しをよくしてやりたいと思います。

それと同時に、先ほど言いましたフェイスブックあたりも大事な情報源、最大の情報源だと思いますので、武雄には山口昌宏議員が言われましたような温泉美人とかいろんな形で、今特色ある農産物が生産されております。それらの販売が元気になれば、それが大きな産地につながるというものを思っておりますので、その点もよろしく願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどちょっと答弁を吉川議員のときにし忘れたんですけれども、F&B良品TAKEOの中で売れているベストスリーが鍋セットと、次、野菜なんですね。野菜と、あとはちょっとまちまちなんですけれども、その野菜もどこで売れているかということ、意外なことに東日本で売れよるとですよ。やはりそれはさきの東日本大震災の影響があって、なかなか生産ができないとか、あるいは誤った風評が広がっているという結果、とにかく九州の農産品に対する需要というのは思った以上にあります。ですので、F&B良品TAKEOでは、手数料はゼロです。やっぱりこういう農産品がありますよというのを、ぜひ私どものほうにお寄せいただきたいと思います。特に根菜類なんかはもちますので、それを昔、ロバート・デ・ニーロと言われた山口良広議員の顔写真をつけて、それで出すと、それを消費者の皆さんたちが安全・安心と思って買ってくださいと。

だから、今まで、先ほどの御田中（みたんなか）米もそうなんですけれども、なかなか市場に出なかったものをそういったことで出せると。しかも、これは吉川議員がおっしゃったように、お店に行かなくて宅配ですので、そこで買えるということからすると、これは物すごくマーケットに、市場になると思いますので、もちろんトップセールスはやりますけれども、ぜひですね、山口良広議員は農業界では物すごく力があられます。ですので、ぜひその呼びかけをお願いしたいというふうに思っております。

J Aについては小池副議長と連携をしながら、そういったオール武雄の農業としていろん

な直売であるとか、通販であるとかというのを売っていくように、私自身も全力を挙げて支えて応援をしていきたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

よろしくをお願いします。ぜひ、今度は私、認定農業者等の会議等で今のフェイスブックあたりのことを紹介してメンバーを募るような形で取り組みたいと思います。

先ほどのパネルで紹介しましたように、日本とアメリカ、オーストラリアと大きな違いは、日本は平野が少なく、武雄でも同じですが、山が多く田んぼの面積が狭い、雨が多いために用水路、排水路が生活水の排水路も兼ねている。その維持管理のために年四、五回の草刈りや用排水路の泥揚げなど維持管理作業をしなくてはならないのです。それと水害対策、環境保護のためにも重要な作業となっております。でも、その作業は直接には農業所得には結びつきません。

そこで、私は今ある農地・水・環境保全向上対策事業は大事な事業で、今積極的に農村部では活用されています。今後この事業はどうなるのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

次期対策としては継続の方向でありますけれども、まだ具体的な指針が示されておられません。今後、国、県の説明会等を受けながら推進をしていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、今、公役等の関連の中で農地・水・環境ということで草刈りや溝揚げができております。また、昨日のイノシシ対策の中でも11月ごろに草刈りをやるのとやらないのでは大きな違いがあるというふうなことも言われました。その対策として、この農地・水・環境保全向上対策事業というものは大事なものがありますので、ぜひ継続してされるようによろしくお願いします。

次に、後継者対策です。

武雄市における過去二、三年間のUターンを含めて新規就農者があれば教えてもらいたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

新規就農者の数ですけれども、武雄市では平成21年に4名、平成22年に9名、平成23年に8名と計21名の方が就農されております。ことしの平成23年の8名の方の就農の経営部門に見ますと、稲作が1名、露地野菜が1名、施設野菜が1名、肉用牛が2名、養豚1名、ブロイラー1名、その他1名となっております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、数字的に発表してもらいますと、結構21名と言えば私も意外に多いんじゃないかなというのを感じました。ぜひ、その中でわかったら、若い世代の方の年齢的なことでもわかったらいいと思いますけど、それは省略します。

そこで後継者対策です。

国の食と農林漁業再生のための基本方針行動計画が示されています。以前、農業新聞にも載っていましたが、青年就農支援がT P P対策とは別に確認されて行われるということが提言されていました。その内容はどんなもので、武雄市としてはどう取り組むつもりなのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

地域の農業の維持のためには、新規就農者の確保が重要ということは認知をしております。本事業の要件等が明確にはまだ示されておりませんので、明らかになり次第、対象となり得る新規就農希望者等へ事業を周知していきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、この対策というものは、我々農業者から見れば魅力ある対策になりそうです。

その中で、今、私たちの世代が後継者を継がせようか、継いでもらいたい、しかし今の農業の中ではその子どもに給料をやってまで生活をさせることはできない。仕方なく出て行って外で稼いでくれというのが現実です。その対策に、ほかならぬがこの事業だと思っております。その内容を吟味して武雄に合うような形で紹介して、一人でも多くの子どもたちが、青年が農業を継ぐような組織づくりを提言してもらいたいと思います。

次に、農業高校についてです。

県内には5つの農業高校があります。白石の佐農、ちょっと今は名前が変わっていますが、佐賀農芸、神埼、唐津、伊万里と5つの農業高校があります。そこで、私たちが農業高校に学んだ40年前には9割以上が農業後継者として家業の農業を継いだものです。そして、武

雄市内にも私の同級生は10人以上が農業を継いで、今、地域の中核として農業者を引っ張っているのが我々の仲間だと思っています。それが今はどうでしょう。先ほど数字にはありませんでしたが、高卒の新規就農者はゼロに近いのではないかと思います。恐らく県内でも、どこの市町村でもそう変わりはないと思うのです。

そこで、私は提案したいのです。私は、今ある農業高校で農業教育ができ得る環境が将来にわたって保障できる農業高校を佐賀県に1つ、農業後継者を育てる全寮制の佐賀県立農業大学の附属高校としてあってもいいのではないかと思います。その中で農業を志す高校生を育てる。私は市長にお願いして、何かの機会に提案してほしいと思うのです。ほかの農業高校は今までのように農業や食の安全、農業土木の技士を育てる教育など農業高校としてあっていいと思うのです、今のままで。しかし、今のままのような農業高校生を育てていきますと、農業を志す子どもは少数派になり、夢を持たないような気がするのです。それは、農業をやろうという仲間がそこにいないからです。今のままでは農業後継者は育たないのではと思うのです。ぜひ、市長の見解を聞き、どこかの時点で行動に移してもらいたいと思いますが、いかがなものでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これね、もしつくっても、趣旨はよくわかるんですけども、これは学校を新たに作るにしても、やっぱり自分が例えば卒業したときに職があるとか、所得がどうかといったときに、やっぱりそっちもちゃんとしとかんばいかんですもんね。

ですので、私とすれば、やっぱりですね、例えば湯布院です。湯布院はデータから見ても農業所得者の所得が非常に高いです。というのはなぜかといったら、各旅館とかホテルが優先してそこから、例えばクレソンやったら朝長議員のところとか、あるいは鶏肉やったら山口等議員のところとか、というふうにしてそういうふうにもう直で買いよるわけですね。そうすると、物すごく計画が立てやすいというのと、やっぱり所得の一定以上あるわけですよ。そこば目指してと湯布院ブランドが加わって、そこば目指して農業経営者になりたいという声は結構あるんですね。

ですので、我々からすると、今、武友会ですよ、私も呼ばれて行って実際食べましたけれども、こういった皆さんたちを応援を、もっと出るようにですね、若手の農業経営者を出して応援をするのと同時に、武友会のような広がりやがどんどん出ていくことによって、ああ、やっぱり農業ばすとは格好いいと、それとやっぱり稼ぎになるもんねというところまで持って行ってやらんぞ、学校をつくってもやっぱり、それが悪かとは言いませんよ、悪かとは言いません、いい案だと思いますけれども、それだけではやっぱり私は厳しかというふうに思っています。

したがって、我々からすれば、温泉美人の話も出ました。いろんな話も出ています。米とかですね。今、ひょっとすれば三越が武雄の米を取り扱う可能性も出てまいりました。これは小池議員にちょっとお願いをして、そういう運びにどうもなりそうなんです。そういったことで販路をちゃんとつくってあげて、それが地域の所得に結びつくように、これからちょっと本当にもうまじめに本腰を入れていきたいと思っています。

今まではともすれば、やっぱり足ば引っ張られることも多かったですもんね。市民病院の民間移譲であるとかさまざまあったんですけど、そういった足を引っ張るエネルギーを今度は売り出すエネルギーに変えていく。ともすれば逆風を順風に変えていくというのが、首長としての私に課せられた役割だというふうに思っておりますので、ぜひそういった意味での力を発揮していきたい。

それで、最後にしますけれども、ぜひ消費者の皆さんたちをお願いしたいんですよ、市民の皆様方に。例えば、物産館であるとか、あそこのツタヤの横は何て言いましたっけ。

（「マックスバリュ」と呼ぶ者あり）マックスバリュもそうです。ゆめタウンもそうなんですけれども、今、地元の生産者が出しとんさあですよ。あら、写真があったですよ、若かりしころの、マックスバリュに。そいぎ、私はそれば避けて買いますけど、冗談ですけどね。だから、そういうふうに生産者の顔が見えて名前があるところをね、ぜひ消費者の皆さんたちには買ってほしいと思います。それが農業を拡大して回す応援になるわけですよ。それは重ねてお願いをしたいと、このように思っております。

以上です。

#### ○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

#### ○5番（山口良広君）〔登壇〕

販売対策、あくまでもそれが一番大事です。しかし、高校時代に夢を見ていろんなところに実習に行ったり、お話、しゃべりながら人生を語る、それが学生時代と思います。その子どもたちのためにも、ぜひよろしくお願いします。

次に、農産物の付加価値をつけて販売する農産物の6次化に対する取り組みです。

私は、ぜひ今まで市長は目を向けている中国であり台湾、香港、生の農産物の輸出、それも大事でしょう。それを生のままでなくカット野菜にして冷凍食品に米やモチ米、大豆を炊飯したり、もちや赤飯、大豆加工などいろんな加工商品が考えられると思うのです。それを世界の最先端に行く冷凍食品にして輸出する。宮崎県西都市には宮崎経済連がカット野菜の工場をつくり、野菜の付加価値をつけて販売しております。ぜひ、武雄は近隣の農産物の集積地として佐賀県経済連の力を佐賀県農業と手を取りながらいろんな販売対策、それも重要な一つと思っています。ぜひ、武雄の工業団地にはニチイ、味の素など食品加工企業誘致を視野に入れていろんな販売、ぜひ農産物の販売振興もやってもらいたいと思います。その点

についてどう思われるか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

わかりました。

〔5番「よろしくお願ひします」〕

○議長（牟田勝浩君）

まだです。まだ指名しておりません。

質問の途中ではありますけれども、もうすぐ12時になります。5番議員と先ほど確認しましたら、ちょっと入り込んでもしていただければということなんですけど、皆さんいかがいたしましょうか。継続してよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

では、継続したいと思います。

では、5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

農業で一番大事なのは販売対策だと思っています。その点もよろしくお願ひいたします。次に、最後の質問になります。

私は6月議会でもこの問題を取り上げました。武雄北方インター工業団地ができれば、朝日から武雄から行く近道は農道しかないのに、これが工業団地がオープンしたら混雑してどうもこうもならんじゃろうということで、どがん、なしわからんとかにゃということで思っていたわけです。ぜひ検討ばしてくれんですかということで思っていました。

そして、ある先輩と話していたら、「そがん言うないば、あんた調べてみんや」て。そいがないば、答えは現場にあるはずばいということであったので調べてみました。（パネルを示す）それがこの結果です。朝の7時から7時半まで、8時まで、8時半まで、9時ということで、こちらは北方のほうから朝日のほうへ、こちらは武雄から北方のほうへということで2つがあるわけです。そしたら、朝の7時から7時半までには朝日のほうへは2台、北方のほうへは11台、8時までには4台、28台ということでこのような数字が出ました。もっとたくさん車が通るものと思って期待していたわけです。しかし、いざあそこに立って見ていると、答えはわかりました。この農道を入れて498号の道路に入るところは、若木から北方まではもう数珠つなぎでつながっております。そこに農道を通った車は、もう入ることができませんでした。ああ、こんな中ではどがんこの道を改造してもやっぱり無理じゃなということ……

〔市長「そうやろう」〕

もう、やっぱり見てみんば、答えは現場にあるということがわかりました。

〔市長「そうそう」〕

そういうことで、今度は反対に土曜、日曜日にこの現場を見に行ったわけです。そしたら、国道の通行量は少ないですので、ひっきりなしにこの道路は通っておられます。結局、通勤のための道路ではなく、やっぱり生活の道路だなということを感じたのが私の答えです。

だから、私は今からこの問題であそこの農道を拡張より498号のバイパスをいかにして早くつくってもらいまして、武雄北方インターの近くの整備ができ、あのバイパスができて、その関連する道路網の整備というものをいち早くしてもらおうのが、この武雄北方インター工業団地への通勤者の道だと思いました。ぜひ、この点について市長の考えをお聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お考えはその通りだと思います。それに沿って武雄市議会においても一生懸命されておりますので、本当に御納得されて私はうれしく思っております。

先ほどちょっとごめんなさい、答弁漏れが1個ありましたので、ちょっと申し上げたいと思います。

農産品の販路については、やっぱり縮小する国内だけじゃもう無理なんですね。それで、今度、佐賀県が我々の提案を取り入れて瀋陽、上海、そして香港に今度事務所を今開設されて、香港については1月10日に開設予定です。特に香港の事務所開設に当たっては、稲富正敏県議がもう一生懸命知事におっしゃっていただいて、そこで開設の運びになりました。さすが知事も、香港にきちんと置くというのはお目が高い。香港がオール中国の一つの拠点、窓口になつとるわけですね。そこに我々としては積極的に応援をしたいと思っております。

要するに、今、例えば米であるとか、大豆の加工品であるとか、例えばイチゴでもそうです。香港を通じて中国がもう爆発的に求めておるわけですね。そこに我々は積極的参入をしていきます。

ただ、そうは言っても道しるべなくして行くのは非常に危険です。ですので、今度このためにうちは職員を採用しました。（パネルを示す）私と同年代で中国語の達人であります。中国の企業に十数年勤務した経験があって、中国全省を踏破した男であります。笠原といいます。この笠原を我々は任期つき採用として採用をしました。今度、武雄市の職員として香港事務所に出します。彼が、もう口が物すごいききますもんね。ですので、その彼が日本語より中国語のほうがうまいです。ですので、そういった物すごく押しの強さと迫力と人的なネットワークをおかりして中国全土に広がっていくような応援をしていきたいというふうに思っております。

重ねてではありますけれども、もう国内だけ目を向けていっても無理です。ですので、飛

躍する、特にアジアを念頭に置きながら、我々としても販路の開拓にまた努めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

これを持ちまして私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（牟田勝浩君）

以上で5番山口良広議員の質問を終了させていただきます。

〔24番「議長、議事進行」〕

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）

山口良広議員の質問中でしたので、お待ちして、終わるのを待って今議事進行を出しました。

実は、山口良広議員の質問の冒頭ですね、市長が、いわゆるそんなことはだれでん知っとるという発言をした後ですね、私はちょっと気になったから山口議員にはっきり、ゆっくり山口議員の質問に対して答えなさいということを私申し上げたところ、自分が立ち上がって、私に対して陰口をしたとかいうような議員というような表現をした。私は陰口をするような男じゃありませんよ、堂々と言いますよ。

そしてもう1つは、元議長というそういう表現をされました。私は確かに合併前の議長でしたよ。ですけれども、武雄の例えば私がそういう者であればそう言われてもいいですけれども、問題は、大事なものは、前の武雄市議会までがそういうふうに侮辱されたような気がしてどうしようもなかったんですよ。

そしてもう1つは、自分が先ほど議会でも、役所の職員でもない、議員でもない方に対してああいうふうな表現をされるとかね、そういうことについて、私は議長に私はお尋ねしたい、議事進行ですから聞いているんですよ。市長に言っているわけじゃないですよ。そういうふうな発言をきちっと議長が注意をすとか、あるいはそういう発言をとめさせるとかということを、きちっと議事の進行内でしてもらわんと、もとの本旨と違うような格好で進んだりするような気がしてどうしようもないわけですよ。もちろん議長が注意してもらっているのはよく承知していますけれども、今回の山口議員の発言に対して、何か笑ったような感じで、そんなのだけれども知っておるとかね、議事録見てきなさい、そういう聞き方を私したわけですよ。

それで、私はほかの、いわゆる議会外の人に対する発言があったときに、私は前の山内の議長にお尋ねしました。山内の議長でもこういう発言を許しておったねと。いや、そういう事例はなかったということでした。黒岩議員にはお聞きしようとしたときには席をお立ちな

っていますのでそれは聞いていませんけれども、少なくともよその議会でもそういうことはあっていないと私は思うんですよ、お話聞けませんでしたけれども。

私が言うのは、そういうふうなことに對して、実は一般質問はこれで終わりますので、いわゆる発言を取り消すとか陳謝する、あるいはそういう機会がなくなりますので、あえてお尋ねしました。議長、どういうふうに諮られますか、お尋ねします。（「いろいろあっくさ」と呼ぶ者あり）

〔19番「ひとり言ぼどがんで取り上ぐつと」〕（発言する者あり）

○議長（牟田勝浩君）

先ほどの議事進行にお答えいたします。

議事の進行ということに関しましては特には問題ないと思いますけれども、発言の内容に関しましては、その都度、自分で判断いたしまして発言者、そして市長、本日もそうでありました。一応注意はしております。

先ほど言われました陰口とか元議長という発言はどうかというところなんですけれども、それは私は言葉のキャッチボールの部分で全然問題はないと思っております。

第三者の名前が出たということですがけれども、この議会、旧武雄の議会のと時から第三者の名前は出ておりました。ここで例は言うことはできませんけれども、結構出ておりましたので、それも容認しております。

そういうふうないろんな発言に関しましては、私自身、例えば本会議中、そして終わった後にも、例えば樋渡市長、その他執行部、議員に関しても一応指導はしているつもりでございます。

以上でございます。（発言する者あり）

議事の進行につきましては、以上でございます。

〔市長「ルール守れよ」〕

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）

今、私ここに立っております。議席におりますので、さっきのは訂正していただきたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）

杉原前議長にはお尋ねをしました。皆さんの前でお尋ねしたわけですよ。黒岩議員はお尋ねしようとしたらいらっしやいませんでしたからしなかったということで、今。

〔23番「そのときや」〕

そのときの話よ。

[23番「はいはい」]

私は、そういう失礼なことしませんよ。そういうことですからね。私は、議長に申し上げた、いや……

○議長（牟田勝浩君）

谷口議員、議事進行とは議事の進行に関して質問することであって、私がこう言われた、ああ言われたという部分はいりませんので、それは後で議長に申し入れということで申し入れてください。

[24番「いやいや、そうじゃなくて、そういうことについてはどう処理をされますかというのを言っていますから。市長は黙っておきなさい」]

[19番「黙っておきなさいというとはおかしかろうもん」]

[市長「ルール守れよ」]

以上でございます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

散 会 12時8分